

東北地区 大学図書館協議会誌

第 70 号
平成 31 年 4 月



シュネーダー記念東北学院大学図書館

寄稿 岩手県立大学メディアセンターにおける学生協働の事例	1
第 73 回東北地区大学図書館協議会総会	4
日程	4
総会資料	5
総会議事メモ	42
出席者名簿	45
図書館統計年報	47
東北地区大学図書館協議会総会当番地区・当番大学	50
東北地区大学図書館協議会役員館一覧	51
東北地区大学図書館協議会会則等	52
東北地区大学図書館協議会加盟館及び職員名簿一覧	63

第73回東北地区大学図書館協議会総会



当番大学 東北学院大学松本宣郎学長挨拶



当番館 東北学院大学佐藤義則館長挨拶



常任幹事館 東北大隅典子館長挨拶



総会風景



講演会風景



国立大学部会風景



公立大学部会風景



私立大学部会風景

寄 稿

岩手県立大学メディアセンターにおける学生協働の事例

岩手県立大学メディアセンター図書事務員
木 村 祐 子

はじめに

岩手県立大学メディアセンター(図書館)では、ラーニング・コモンズにおける人的支援の取り組みとして、平成24年度に学生によって構成されるライブラリー・アテンダント(以下「LA」という。)を結成し、企画展示や利用案内、広報等の活動を通して、学生目線による図書館サービスの改善や利用促進を図っています。

平成30年度は活動7年目となり、継続的に行ってきました活動に加えて、LA自身が企画した新たな活動が増えてきました。これまでの活動を振り返りながら、学生協働の取り組みについてご紹介します。

1. LAの発足

LAを結成したのは平成24年度。当館において、アクティブ・ラーニングや、学生の学修活動の変化に対応するため、三ヵ年計画によるラーニング・コモンズの整備を開始した年です。学生の学習スタイルにあわせた「場」、それらを活用するための「人的支援」を二つの柱とし、その実現のため、学生との協働をスタートさせました。設備等の改善に学生の声を取り入れられること、また、学生目線での利用サポートにより、LAとサポートされる学生、相互の自学自習が促進されること、そして、LAにとっては、図書館の仕事に関わることで、キャリア支援の役目を果たすことも期待されました。

学生の図書館利用が年々減少している状況で、LAの活動に興味を持つ学生がどの位いるのか見えない中の募集でしたが、蓋を開けてみれば、10名程度の募集に対し26名の応募がありました。学生の読書離れや、図書館利用の減少が顕著になっている状況においても、図書館や読書に強い関心を持つ学生が相当数いるということを実感した、心強い出来事でした。結果、26名全員を採用とし、第1期LAが誕生しました。

2. LAの活動について

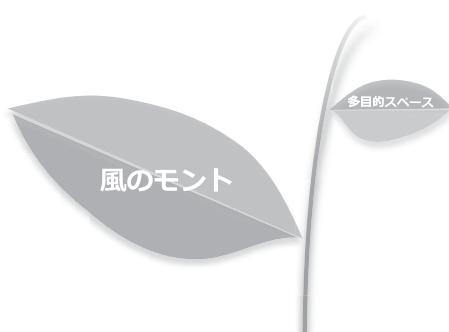
発足初年度は図書館だよりへの寄稿や利用案内の掲示物作成といった広報活動、企画展示、図書館利用について案内するLA席の設置、書店に直接赴いて選書する選書ツアーといった活動を行いました。これらの活動は、学生目線で改善しながら現在も継続しています。

2年目以降は新入生への図書館案内や利用者講習会、カウンター対応など、LAによる利用者支援を充実させました。

平成26年度に、図書館に隣接したスペースを、アクティブ・ラーニングや学習の合間のリフレッシュ、学生同士の交流など多目的に活用できるスペースとして整備し、「多目的スペース風のモント」(写真①)としてオープンした際には、学生に親しみを持って利用されるよう、名称やロゴ(写真②)などにもLAのアイデアを取り入れています。



写真① 多目的スペース風のモント



写真② ロゴ

活動を続ける中で、県内図書館の視察や他大学との交流など、学外の取り組みから刺激を受ける機会も多くなりました。また、LA同士で活動のノウハウを伝え合うなど、主体的な活動も増えてきた折、LAから、新しい活動についてのアイデアが出されました。これまでの活動は、図書館や読書に興味がある学生が、さらに利用したくなるように考えられたものでしたが、新たに提案されたのは、図書館や読書に興味がない学生をどうやったら引き込めるかという視点での取り組みでした。平成30年度に実施した一部の取り組みをご紹介します。

(1) 移動図書館

学生が集まる場所へブックトラックで本を運び、昼休みや放課後に本の紹介や貸出、返却を行う企画です。

4月から10月の間、食堂がある棟、教室がある棟、学生の研究室がある棟と場所を変えながら実施しました。初回を終えた結果は、見慣れないイベントに気軽に足を運ぶ学生は少なく、手に取られた本は数える程度でした。残念な結果となったものの、LAから出た言葉は「今度は、本を気軽に手に取れるように受付係を少なくてみよう。」など前向きなもので、毎回、試行錯誤しながら、合計8回実施しました。

毎回、利用者は多くありませんでしたが、足を止めてくれた利用者からあたたかい言葉をもらうなど、「利用者と会話を交わしながら本を提供する」という経験はLAにとって貴重なものとなりました（写真③）。

(2) 図書館謎解き脱出ゲーム

10月の大学祭でのイベントとして、学生の他、一般来場者も参加可能なものとして企画されました。図書館内で参加者が問題を解きながら、会話可能なスペースと会話不可のスペースがあることや、OPACの使い方など、基本的な図書館の利用方法について学べる企画です。

LA自らが計画し、メンバー間での検討、職員との調整を重ねながら、イベントの準備を行いましたが、準備期間が短かったことから、大学祭で配布する案内冊子にイベントの掲載をすることができませんでした。そこで、何か工夫をしたいと考えていましたが、SNSによる告知やポスター掲示に留まり、広報に特別な工夫ができないまま当日を迎えることとなりました。しかし、当日は運営担当のLAが総出で呼び込みを行ったこと、屋台やサークル活動の発表が多い中、このような参加型の企画が珍しかったことから、時間には会場が満席となり、期待を上回る43名（全2回合計）の参加がありました。問題の難易度の設定や、準備作業の分担の仕方など様々な課題は残りましたが、自分たちで企画し、実行したイベントが盛況に終わり、今後の活動における意欲や自信につながった経験となりました。

(3) もくもく読書会

12月に図書館に隣接する多目的スペース風のモントにて、もくもく読書会を開催しました。読書会というと、事前に指定の本を読んだ参加者が集まり、内容や感想について意見を交わし合うものをイメージされるかと思いますが、このもくもく読書会は、もっと気軽に参加できるよう企画しました。



写真③ 移動図書館(食堂前)



写真④ もくもく読書会

「もくもく」の由来は、「もくもく会」という勉強会・イベントの開催方法で、参加者がモチベーションをあげるため、特定の場所に集合しつつも、作業自体は各自が「もくもく」と個人で行うというものです。

このことから、もくもく読書会は、参加者が読書を楽しめる機会や場を提供することを一番の目的とし、ソファーやお菓子・飲み物等を用意するなど、気軽に参加できる雰囲気を作りました。また、参加者同士が交流できるよう、おすすめの本のPOPを作成してもらい、会場に飾るなど、手作りのあたたかみのあるイベントとなりました。

その効果もあってか、参加者はもくもくと読書をするだけではなく、POPを作成しながら、交流を楽しむ姿も見られました（写真④）。

3. 今後の取り組みについて

これまでの利用案内や企画展示、広報といった活動の積み重ねにより、本学図書館におけるLAの活動やその存在も定着してきました。

平成30年度は、同年度の図書館総合展ポスターーションに出展したポスターのテーマ「空飛ぶ図書館～新たな出会いを求めて～」にも表れているように、図書館の枠を飛び出し、図書館の魅力を広めたいというLAの前向きな姿勢が形になった一年でした。

しかし、課題もあります。LA同士の情報共有が難しく、全体で活動を行うために、情報共有に工夫が必要であること、学生ならではのアイデアを生かしつつ、より効果的な活動にすることなどが挙げられます。これらの課題に一つひとつ向き合いながら、LAの意欲を、今後も図書館のサービス改善や利用促進につなげていきたいと考えています。

LAは、発足から8年目を迎える平成31年度以降の新たな展開として、国際交流事業との連携も検討しています。まだまだ試行錯誤が続きますが、活動を通して、学生と職員が成長し合える関係性を築いていきたいと思います。

第 73 回東北地区大学図書館協議会総会日程

開催日 平成 30 年 9 月 21 日（金）

総会会場 東北学院大学土樋キャンパス 8 号館 3 階 第 3 ・ 第 4 会議室
〒 980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目 3 番 1 号

日 程

1. 受付 12:30 ~ 13:00
2. 開会式 (総会会場 第 3 ・ 第 4 会議室)
13:00 ~ 13:10
 - (1) 開会挨拶
当番館 東北学院大学図書館
館長 佐藤 義則 (ラーニング・コモンズ見学 15:20 ~ 15:50)
 - (2) 挨拶
当番大学 東北学院大学
学長 松本 宣郎
 - (3) 挨拶
常任幹事館 東北大学附属図書館
館長 大隅 典子
3. 議長選出
4. 総会
 - (1) 報告事項 13:10 ~ 13:30
 - ① 平成 29 年度活動報告について
 - ② 平成 29 年度一般報告について
 - ③ 研修部会の設置について
 - ④ その他
 - (2) 協議事項 13:30 ~ 14:10
 - ① 平成 29 年度決算報告（案）について
 - ② 平成 29 年度記念事業基金決算報告（案）について
 - ③ 平成 29 年度監査報告について
 - ④ 平成 30 年度事業計画（案）について
 - ⑤ 平成 30 年度予算（案）について
 - ⑥ 平成 30 年度記念事業基金予算（案）について
 - ⑦ 研修部会の活動について
 - ⑧ 災害時における各加盟館の被害・復旧状況の情報集約・公表について
 - ⑨ 第 74 回総会の当番地区（館）について
 - (3) その他（承認事項）
 - ① 読書バリアフリー法（仮称）への対応について
 - ② 図書館独自の収入確保（または経費節減）状況について
- (休憩 14:10 ~ 14:20)
5. 講演会 14:20 ~ 15:20
演題 『大学図書館コレクションの構図と展望』
講師 佐藤 義則氏 (東北学院大学文学部教授、同大学図書館長)
6. 部会 15:50 ~ 16:30
・国立大学部会：第 1 会議室
・公立大学部会：第 2 会議室
・私立大学部会：第 3 会議室、第 4 会議室
7. 全体会議 16:35 ~ 17:00
① 各部会からの報告
② 質疑応答
8. 閉会式 17:00 ~ 17:10
次期当番館挨拶

第73回総会資料

平成29年度 活動報告

(常任幹事館：東北大学附属図書館)

第72回総会（平成29年9月）以降の協議会の活動について、以下の通り報告する。

1. 研修会等の開催

1) 平成29年度東北地区大学図書館協議会フレッシュペーパンセミナー

日 時：平成29年10月13日（金）10：00～16：30

会 場：東北大学附属図書館本館

講 師：加藤 信哉（国際教養大学中嶋記念図書館長）
会田 忠弘（山形大学小白川図書館情報サービス担当）
代田 有紗（東北大学附属図書館情報管理課図書情報係長）

石黒 こずえ（秋田県立大学図書・情報センター・シニアスタッフ）

齊藤 由理香（東北福祉大学図書館司書）

加藤 晃一（東北大学附属図書館事務部長）

葛西 崇文（青森中央学院大学教育開発推進課リーダー）

渡邊 淳子（福島大学学術情報課副課長）

西村 美雪（東北大学附属図書館情報サービス課参考調査係）

川崎 かおる（岩手医科大学附属図書館事務室室長補佐）

受講者：34名

2) 平成29年度国立大学図書館協会東北地区協会職員研修 主 催：国立大学図書館協会東北地区協会／後援：東北地区大学図書館協議会

日 時：平成30年2月16日（金）13：00～17：15

会 場：東北大学附属図書館本館

テーマ：アンガーマネジメントに学ぶ、よりよい人間関係を築くスキルの習得について

講 師：杉浦 永子（第一印象研究所代表／接客マナー＆アンガーマネジメントコンサルタント）

受講者：30名

3) 平成29年度東北地区大学図書館協議会合同研修会

日 時：平成30年8月24日（金）13：30～17：00

会 場：山形大学法人本部3階第一会議室

テーマ：著作権法改正と図書館サービス

講 師：山中 弘美（大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構研究協力部長）

三角 太郎（東北大学附属図書館情報サービス課長）

受講者：34名

2. 協議会誌の刊行

『東北地区大学図書館協議会誌』第69号を刊行し、平成30年5月に加盟館及び国立国会図書館等関係機関に配付した。

3. 加盟館数（平成30年8月現在）

63館（国立15館、公立12館、私立36館）

平成29年度 一般報告

一国公私立大学図書館等の動向－

(常任幹事館：東北大学附属図書館)

1. 国公私立大学図書館協力委員会関連

1) 平成29年度大学図書館シンポジウム

主 催：国公私立大学図書館協力委員会、日本図書館協会大学図書館部会

日 時：平成29年11月9日（木）13：00～17：00

場 所：パシフィコ横浜（第19回図書館総合展会場）

テーマ：大学図書館と学内協働～活動の可能性を広げるために～

2) 第83回国公私立大学図書館協力委員会

日 時：平成29年12月8日（金）13：00～14：15

場 所：慶應義塾大学三田キャンパス

議 事：1 報告事項

(1) 委員長館会務報告

(2) 「大学図書館研究」編集委員会報告

(3) 大学図書館著作権検討委員会報告

(4) シンポジウム企画・運営委員会報告

(5) GIFプロジェクトチーム報告

(6) Webサイト運用チーム報告

(7) 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)報告

(8) オープンアクセスリポジトリ推進協会

(JPCOAR) 報告

(9) これからの学術情報システム構築検討委員会報告

(10) SCOAP³タスクフォース報告

(11) 関係機関報告

2 協議事項

(1) 平成28年度決算(案)及び監査報告について

- (2) 平成29年度予算（案）について
 (3) 監事館の選出について
- 3) 平成29年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会
 日 時：平成29年12月8日（金）15：30～17：45
 場 所：国立国会図書館東京本館
 報 告：「国立国会図書館における最近の主な取組」
 　　（国立国会図書館田中久徳）
 　　「オープン化の時代の学術情報基盤と大学図書館」
 　　（千葉大学竹内比呂也）
- 4) 第84回国公私立大学図書館協力委員会
 日 時：平成30年7月20日（金）15：00～17：00
 場 所：大阪府立大学I-siteなんば
 議 事：1 報告事項
 　　(1) 委員長館会務報告
 　　(2) 「大学図書館研究」編集委員会報告
 　　(3) 大学図書館著作権検討委員会報告
 　　(4) シンポジウム企画・運営委員会報告
 　　(5) GIFプロジェクトチーム報告
 　　(6) 専門委員会会計監査報告
 　　(7) Webサイト運用チーム報告
 　　(8) 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)
 　　　　報告
 　　(9) オープンアクセスリポジトリ推進協会
 　　　　(JPCOAR)報告
 　　(10) これからの学術情報システム構築検討委員
 　　　　会報告
 　　(11) SCOAP³タスクフォース報告
 　　(12) 関係機関報告
 2 協議事項
 　　(1) 専門委員会主査について
 　　(2) 国公私立大学図書館協力委員会旅費等支
 　　　　給のガイドラインについて
 　　(3) 次期委員長館の選出について
2. 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議関連
 1) 2017年度大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)総会
 日 時：平成30年3月1日（木）13：00～16：45
 場 所：一橋大学一橋講堂中会議場
 議 事：第一部総会議事
 　　1 報告事項
 　　　(1) 2017年度の活動について
 　　2 協議事項
 　　　(1) 2017年度の決算について
- (2) 2018年度の活動について
 (3) 2018年度の予算について
 (4) 2018年度の運営委員会委員について
 (5) 2019年度以降の会費について
- 第二部各種報告
 1 電子ジャーナル契約・交渉に係る海外の状況
 2 JUSTICEにおける出版社交渉のポイント：
 　　2017年度実務研修成果から
- 2) これからの学術情報システムに関する意見交換会2017
 主 催：これからの学術情報システム構築検討委員会
 会場・日時：札幌会場 平成29年10月 2日（月）14:00～17:15
 福岡会場 平成29年10月13日（金）13:00～16:40
 京都会場 平成29年12月 1日（金）13:00～16:40
 名古屋会場 平成29年12月 8日（金）13:00～16:40
 東京会場 平成29年12月20日（水）13:00～16:40
- 内 容：1 これからの学術情報システム構築検討委員
 　　会による検討概要
 2 電子情報資源のデータの管理・共有について
 3 NACSIS-CAT/ILLの再構築(軽量化・合理
 　　化)について
 4 意見交換
- 3) 2017年度オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)総会
 日 時：平成30年3月14日（水）13：30～17：00
 場 所：一橋大学一橋講堂中会議場
 議 事：第一部総会議事
 　　(1) 入会状況について（報告）
 　　(2) 会則の改正について（協議）
 　　(3) 2018年度会長選出について（協議）
 　　(4) 2018年度監事選出について（協議）
 　　(5) 2018年度運営委員会委員について（協議）
 　　(6) 2017年度活動について（報告）
 　　(7) 2017年度決算について（経過報告）
 　　(8) 2018年度活動計画及び作業部会・タスク
 　　　　フォース活動計画について（協議）
- 第二部各種報告
 (1) OA方針成果普及タスクフォース活動総括
 (2) JPCOARスキーマの策定と普及活動について
 (3) RDMトレーニングツールの展開
 (4) Asia OA Meeting 2017参加報告(海外派遣)
3. 平成29年度国立情報学研究所（NII）研修事業
 1) 専門研修
 　　(1) 目録システム書誌作成研修

- (2) 情報処理技術セミナー
- 2) 総合研修
 - (1) 大学図書館職員短期研修(主催: 京都大学・東京大学, 共催: NII)
 - (2) 学術情報システム総合ワークショップ
 - (3) 国立情報学研究所実務研修

国 立 大 学 部 会 関 係

(幹事館: 東北大学附属図書館)

1. 国立大学図書館協会関連

1) 第65回国立大学図書館協会総会

日 程: 平成30年6月14日(木) ~15日(金)
場 所: 京王プラザホテル札幌(当番館: 北海道大学附属図書館)

議 事: 1. 報告事項

- (1) 一般経過報告
- 2. 協議事項
 - (1) 平成30年度理事・監事の選出について
 - (2) 平成29年度決算報告・同監査報告について
 - (3) 平成29年度記念基金決算報告・同監査報告について
 - (4) 平成30年度事業計画(案)について
 - (5) 平成30年度予算(案)について

3. 文部科学省所管事項説明

4. 国立情報学研究所事業説明

5. 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議報告

6. 国立大学図書館協会賞表彰式

受賞者: 山口大学図書館、島根大学附属図書館

件 名: 交流シンポジウム開催による図書館学生協働活動の活性化

7. 海外派遣報告

- (1) 北米の大学図書館におけるアウトリーチサービスの実態調査
- (2) 台湾の大学図書館における国際化に即した情報リテラシー教育
- (3) 北米の大学図書館事業における他組織との連携協力に関する調査
— 学習支援と研究支援の観点から —

8. 研究集会

テーマ: 国立大学図書館協会ビジョン2020に基づく活動について
— ビジョン採択から2年を迎えて —

2) 平成29年度国立大学図書館協会秋季理事会

- 日 時: 平成29年10月24日(火) 14:00~17:00
- 場 所: 名古屋大学
- 議 事: 1. 報告事項
 - (1) 第64回総会等について
 - (2) 各委員会等報告
 - (3) 地区助成事業申請状況報告
 - (4) 各地区協会報告
 - (5) 第9期学術情報委員会における国立大学図書館協会ビジョンの説明について
 - (6) 平成29年度国立大学図書館協会シンポジウムについて
 - (7) 広報体制の改善について
 - (8) 文部科学省報告
 - (9) 国公私立大学図書館協力委員会報告
 - (10) 日本図書館協会関連報告
 - (11) 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)報告
 - (12) これからの学術情報システム構築検討委員会報告
 - (13) オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)報告
- 2. 協議事項
 - (1) 第65回国立大学図書館協会総会の日程について
 - (2) ビジョン推進事業(平成29年度下半期)の選定について
 - (3) 海外派遣事業実施要項の改正および平成30年度海外派遣事業の実施について
 - (4) 「知の共有」の強化にむけた国立大学図書館間の文献共有・利用のあり方の検討について
- 3) 平成29年度国立大学図書館協会春季理事会
 - 日 時: 平成30年5月14日(月) 14:00~17:00
 - 場 所: 東京大学
 - 議 事: 1. 報告事項
 - (1) 各委員会等報告
 - (2) ビジョン推進事業報告
 - (3) 各地区協会報告
 - (4) 地区協会助成事業報告
 - (5) 国公私立大学図書館協力委員会報告
 - (6) 日本図書館協会報告
 - (7) 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)報告
 - (8) これからの学術情報システム構築検討委員会報告
 - (9) オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)報告

2. 協議事項

- (1) 協会ビジョンに基づく活動および課題について
- (2) ビジョン推進事業（平成30年度上半期）の選定について
- (3) 平成30年度国立大学図書館協会シンポジウムについて
- (4) 協会費を含む会員館の優れた取り組みの発信のあり方について
- (5) 平成30年度海外派遣者の追加募集について
- (6) 平成29年度決算（案）について
- (7) 平成30年度事業計画（案）について
- (8) 平成30年度予算（案）について
- (9) 関係団体への派遣役員について
- (10) 第65回総会について
- (11) 第66回総会の当番館・日程について

4) 平成30年度国立大学図書館協会第1回理事会

日 時：平成30年6月15日（金）12：30～13：00

場 所：京王プラザホテル札幌

議 事：1. 会長・副会長選出

2. 委員長の指名について

3. 理事会付託事項について

4. 今後の日程について

5) 平成29年度国立大学図書館協会シンポジウム

日 時：平成29年12月21日（木）13：00～17：15

場 所：東京大学小柴ホール

テーマ：電子ジャーナル購読をめぐる課題：サステイナブルな学術情報流通のために

参加者：125名

6) プレスリリースの発出

期 日：平成30年1月18日（木）

標 題：大学における学術雑誌購読の危機的状況が深刻化

2. 国立大学図書館協会東北地区協会関連

1) 平成29年度国立大学図書館協会東北地区協会事務連絡会議

日 時：平成29年11月20日（月）13：30～17：00

場 所：秋田大学

議 事：1. 報告事項

- (1) 平成29年度国立大学図書館協会秋季理事会について

- (2) 国立大学法人等採用試験（図書系）について

2. 協議事項

- (1) 国立大学図書館における地域貢献について

3. 承合事項

- (1) 図書の資産登録について
- (2) 学生協働の一環としてのボランティア採用の有無について
- (3) 学術情報リポジトリの利用促進方策について
- (4) 図書館における地域貢献（職場体験等の受け入れ）について
- (5) 図書館での学生向け講習会等の実施について
- (6) 図書館員が行う授業支援について

2) 第49回国立大学図書館協会東北地区協会総会

日 時：平成30年4月23日（月）14：30～17：00

場 所：宮城教育大学

議 事：1. 報告事項

- (1) 国立大学図書館協会について

2. 協議事項

- (1) 国立大学図書館協会東北地区協会理事・当番館等について

- (2) 第65回国立大学図書館協会総会に向けての準備事項等について

- ①第65回総会の研究集会テーマについて
- ②平成29年度地区協会活動状況報告
- ③平成30年度地区理事の選出
- ④平成30年度監事の選出

3. 承合事項

- (1) 図書館における利用者の施設利用の現状について

- (2) 利用者の館内飲食に関するルールおよびルール違反への対応について

3. その他

1) 第91次国立七大学附属図書館協議会・館長会議・事務部長懇談会

日 時：平成30年1月31日（水）13：00～17：00

場 所：東京大学

議 事：1. 図書館の運営について

- (1) eDDSの活用について

- (2) 新図書館・自動書庫の運用経費確保の方策について

- (3) 学内に向けた図書館活動の広報について
- (4) 学生用資料費の確保について
- 2. 大学図書館の国際化について
 - (1) CERNへの実務研修について
- 3. 本協議会のあり方について
 - (1) 国立七大学附属図書館協議会のあり方について

公立大学部会関係

(幹事館：公立大学法人宮城大学学術情報センター)

○第50回（平成30年度）公立大学協会図書館協議会総会

- 期日：平成30年6月15日（金）
 会場：ホテルライフォート札幌
 開催館：札幌医科大学附属総合情報センター
 講演
- 1 「公立大学の課題と公立大学協会の活動」
 一般社団法人公立大学協会 事務局長 中田 晃氏
 - 2 「大学図書館に関する最近の動向について」
 文部科学省研究振興局参事官（情報担当）付学術基盤整備室
 参事官補佐 高橋 稔氏
 - 3 「大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）とその活動について」
 国立情報学研究所学術基盤推進部図書館連携・協力室長
 （JUSTICE事務局長）平田 義郎氏

議事

報告事項

- (1) 平成29年度事業報告
- (2) H P委員会報告
- (3) 地区活動報告
- (4) 関係委員会等報告
- (5) その他

協議事項

- (1) 公立大学協会図書館協議会入会大学について
- (2) 役員の選出について
- (3) 関係委員会委員等の推薦について
- (4) 平成29年度決算報告
- (5) 平成29年度監査報告
- (6) 平成30年度事業計画（案）について
- (7) 平成30年度予算（案）について
- (8) 大学図書館職員長期研修及び短期研修への派遣について
- (9) 公立大学協会図書館協議会表彰規程による表彰について
- (10) 公立大学図書館概要の作成について
- (11) 会費の減額措置について
- (12) その他

○平成30年度公立短期大学図書館協議会総会

期日：平成30年8月23日（木）
 会場：岐阜市立女子短期大学 3階大会議室 3-301
 総会当番館：岐阜市立女子短期大学附属図書館（会長館）
 議事

- (1) 報告事項
 - ア 平成30年度役員紹介
 - イ 平成29年度事業報告
 - ウ 平成29年度決算報告及び監査報告
 - エ 平成29年度中部地区研究会活動報告

(2) 協議事項

- ア 平成30年度事業計画（案）及び予算（案）について
- イ 日本図書館協会代議員選出について
- ウ 会長館の日本図書館協会職務について
- エ 公立短期大学図書館協議会における繰越金について
- オ 公立短期大学図書館協議会総会・研修会の1日開催の検討
- カ 公立短期大学図書館協議会会則について

(3) その他

- ア 承認事項
- イ 平成31年度役員紹介

○平成30年度公立短期大学図書館協議会研修会

期日：平成30年8月24日（金）
 会場：みんなの森ぎふメディアコスモス
 あつまるスタジオ
 開催館：岐阜市立女子短期大学附属図書館
 講演：「公共図書館の新たな役割—図書館は楽しい！を共有する—」
 岐阜市立図書館
 館長 吉成 信夫先生

私立大学部会関係

(幹事館：聖和学園短期大学、修紅短期大学)

私立大学図書館協会・東地区部会を中心に

（平成29年8月1日～平成30年7月31日）

加盟校523校（2018年8月30日現在）東地区部会265校

※東北地区加盟校（50音順）25校

秋田看護福祉大学、石巻専修大学、いわき明星大学、
 奥羽大学、郡山女子大学、尚絅学院大学、仙台白百合
 女子大学、仙台大学、東北学院大学、東北芸術工科大
 学、東北工業大学、東北女子大学、東北福祉大学、東

北文化学園大学、東北文教大学・東北文教大学短期大学部、東北薬科大学、日本大学工学部、日本赤十字秋田看護大学、ノースアジア大学、八戸工業大学、八戸大学・八戸短期大学、東日本国際大学、富士大学、宮城学院女子大学、盛岡大学

○第79回(2018年度)私立大学図書館協会総会・研究大会

日 時：2018年8月30日（木）～8月31日（金）
場 所：龍谷大学大宮キャンパス東棟101講義室
総会

1. 報告事項

- ① 協会賞（2017年度審査決定：2018年度表彰）
- ② 研究助成（2018年度助成対象：2017年度決定）
- ③ 2017年度協会会務報告
- ④ 2017年度委員会報告
- ⑤ 2017年度協会関連事項報告
- ⑥ 2018年度協会役員校、委員会および協会関連団体委員
- ⑦ 2017年度ご寄附をいただいた企業

2. 協議事項

- ① 2017年度一般会計・特別会計決算報告（案）
- ② 2018年度事業計画（案）
- ③ 2018年度一般会計・特別会計予算（案）
- ④ 2018年度新規加盟校及び脱退校（案）

3. 記念講演

演 題「龍谷の至宝」
講演者 入澤 崇 氏（龍谷大学学長）

4. 2017年度海外認定研修報告

報告者 七星 浩也 氏（法政大学図書館）

5. 研究助成発表（1）

研究テーマ：「ML (Museum・Library) 連携により大学所蔵『近世史料』を学修・研究資料化する取組み—古文書解読ボランティア養成を通した翻刻出版と成果還元モデルの構築—」

発表者 伊能 秀明 氏（明治大学図書館）

6. 研究助成発表（2）

研究テーマ：「西洋服飾関連稀覯書の豊かなる世界：東京家政大学図書館所蔵貴重資料の整備について」

発表者 鈴木 恵津子 氏（東京家政大学図書館）

7. 国際シンポジウム講演会

演 題「Community-based library organizations in the US—事例から見る、デジタル時代の『図書館共同体』の存在意義と今後の課題—」

講演者 Emily Gore (エミリー・ゴア) 氏

(The Digital Preservation

Network, Director of Member Services)

8. 講 演（1）

演 題「デジタルアーカイブと図書館」

講演者 原田 隆史 氏

(同志社大学大学院総合政策科学研究科教授)

9. 講 演（2）

演 題「自発的な学びを育む知の結節点としての大学図書館」

講演者 高野 明彦 氏（国立情報学研究所教授）

○2018年度私立大学図書館協会東地区部会総会・館長会・研究講演会

日 時：2018年6月8日（金）

会 場：共立女子大学神田一ツ橋キャンパス共立講堂

I. 部会総会議事

（1）報告事項

- ① 2017年度 東地区部会報告
- ② 2017年度 協会関係報告
- ③ 2018年度 協会役員校、委員会及び協会関連団体等委員

（2）協議事項

- ① 2017年度 東地区部会事業報告
- ② 2017年度 東地区部会決算報告及び監査報告
- ③ 2017年度 東地区部会研究部決算報告及び監査報告
- ④ 2018年度 東地区部会事業計画(案)及び予算(案)
- ⑤ 2018年度 東地区部会研究部活動計画(案)及び予算(案)

II. 館長会

懇談テーマ「図書館職員の専門性の担保と業務委託について」

III. 研究講演会

講 演 1

演 題「連携してつくる大学図書館の学習・教育支援サービス」

講演者 吞海 沙織 氏（筑波大学図書館情報メディア系教授）

講 演 2

演 題「大学図書館は学修支援にどう取り組むのか」

講演者 岡部幸祐氏（新潟大学学術情報部長）

研修部会の設置について

[1] 第72回東北地区大学図書館協議会総会議事メモ[抜粋]

期 日：平成29年9月22日（金）13:00～17:05

会 場：秋田市にぎわい交流館A U4階研修室

参加者：加盟37館から59名

議 事：

3 総会

(2) 協議事項

⑩東北地区大学図書館協議会における研修事業について

(2) 大学教育部会について

事務局から、大学教育部会の現状及び休止している研修部会について説明があり、これらについて各部会で協議することとした。

6 全体会議

各部会から、部会で行った意見交換等について報告があった。

①国立大学部会（報告館：秋田大学）

・大学教育部会及び研修部会の今後のあり方について協議した。

大学教育部会及び休止中の研修部会等について経緯説明があり、部会のこれからのある方について意見交換を行った。研修の必要性は共通認識しながらも、各大学とも人員的に大変厳しい状況のため、大学教育部会が掲げる活動内容（職員の教育支援、学生の学習支援の事業化等）を行う委員を選出することは難しいこと、また、「要項の見直しを行う」、「各部会を一本化する」及び「研修部会の活動再開」等の意見があった。

②公立大学部会（報告館：秋田公立美術大学）

・大学教育部会及び研修部会の今後のあり方について協議した。

大学教育部会については、研修部会のように休止することも含め、新メンバーで今後の部会のあり方を検討してはどうか。また、研修については部会という形にこだわらず、集合研修の代替としてUstream等の動画中継サービス、Web会議等の導入や、あるいは資料共有の体制整備を行うこととし、そうしたこと協議会の予算を使ってはどうか。以上2案を提案することとした。

③私立大学部会（報告館：青森中央学院大学）

・大学教育部会及び研修部会の今後のあり方について協議した。

大学教育部会については、研修部会との目的的差別化や棲み分けを明確にしなければ存続は難しいのではないかという意見が出たほか、委員経験者からは、選出された大学教育

部会メンバーたち自身で部会の調査テーマ等を決定することは、実際には困難であろうとの考えが示された。また、活動を実質的なものにするにはかなり強いリーダーシップの発揮が求められるのではないか、何らかのビジョンや研究のテーマを持った方がメンバーに入り、そのテーマ等を公表して、興味を持った方や考えに賛同する方を募集するような形の方が活動しやすいのではないかといった提案もあり、大学教育部会と研修部会の両方に対して私立大学部会から計6人の委員を出すことは事実上不可能であることから、大学教育部会を廃止もしくは休止してもよいのではないかとの意見でまとまり、大学教育部会委員の担当大学は選任しないこととした。

上記の報告を踏まえて、種々意見交換を行った後、大学教育部会の存続等について、下記のとおり取り扱うこととした。

本件については、幹事館会議（私立部会については旧幹事館を含める）で協議し案を作成後、臨時総会に諮り決定することとした。なお、同会議の構成は下記のとおりとした。

- ・東北大（新常任幹事館）
- ・宮城教育大学（国立大学部会新幹事館）
- ・宮城大学（公立大学部会新幹事館）
- ・修紅短期大学（私立大学部会新幹事館）
- ・聖和学園短期大学（私立大学部会新幹事館）
- ・青森中央学院大学（私立大学部会旧幹事館）
- ・東北学院大学（私立大学部会旧幹事館）

[2] 東北地区大学図書館協議会幹事会議事メモ

期 日：平成29年11月28日（火）15：00～16：12

会 場：東北大附属図書館1号館2F大会議室

出席者：川村（宮教大）、安藤（宮城大）、千葉（修紅短大）、安田（聖和短大）、三田・葛西（青森中央学院大）、浅沼（東北学院大）、加藤・小川・田口（東北大）

議 事：

1. 部会の在り方について

はじめに、第72回東北地区大学図書館協議会総会（平29.9.22）における議事内容について、確認を行った。その後、大学教育部会等の在り方について、下記のとおり種々意見交換を行った。

・大学教育部会の活動は、5年間3期の中で、アンケート1回実施、研修会1回実施と活動が低調であった。

- ・大学教育部会の設置目的である「大学教育の在り方について検討するとともに、協議会としての事業化の企画立案を行い」という目標が高すぎて、図書館を取巻く状況に厳しさが増す中、さまざまな現実とギャップが生じ、目標を達成できなかった。
- ・各大学の規模・特色の違いもあり、共通の大学教育推進の事業化を立案することができなかつた。
- ・各図書館の業務量が増す中、部会委員にとって大学教育部会活動は負担であった。
- ・職員も多様化し、派遣、パート等が多いなか、いろいろな業務が専任スタッフに集中している。少ない専任スタッフから大学教育部会の目的に見合う専門的知識のある委員を派遣することは非常に厳しく、また難しい。
- ・各研修の実施は今後も必要であり、研修部会を復活させてほしい。研修部会は、「研修の企画・実施」と目的が具体的であり、部会委員の負担も大学教育部会ほどではない。

以上の意見を踏まえて今後の方針を検討し、下記のとおり決定した。

①大学教育部会を休止する。

- ・今後の情勢変化の中、大学教育部会が必要とされることも予想されるため、廃止はせず休会とする。

②研修部会を再開する。

- ・現在休止（平24.9.24総会で決定）している研修部会を再開する。
- ・研修部会を再開するにあたり、現在行われている合同研修会との関連で研修部会設置要項の第2条（活動内容）を整理することとし、常任幹事館の東北大学で案を作成し、後日最終確認することとした。
- ・部会担当大学は、国立部会は秋田大学及び東北大学、公立部会は宮城大学（いずれも先の総会で大学教育部会に推薦された大学をスライドさせる）、私立部会は、研修部会設置要項第3条第3項に基づき2名とし、担当大学は12月中を目途に私立部会で選出することとした。

③ウェブサイト運用部会は引き続き休会とし、業務は常任幹事館の東北大学が継続して行う。

- ・協議会誌やニュースの掲載等、現在行っている業務以外の必要が生じた場合は、再検討する。

なお、今後協議会で実施する研修について、下記のとおり意見交換を行った。

- ・合同研修会は、開催担当地区の主導で引き続き行う。
- ・研修部会で企画する研修は、大学図書館職員研修（名称は案）とし、フレッシュバーンセミナー、中堅職員研修、特定業務・主題型研修（目録システム、受入、雑誌・電子ジャーナル契約、企画立案、機関リポジトリ、利用者サービス、教員との協働ガイドンス等の企画立案、事例報告等）を行う。
- ・Ustream等の動画中継サービス、Web会議等の導入も検討する。

これらの研修に関しては、今後幹事会及び研修部会で具体的な検討を行うこととした。

2. その他

今後、臨時総会（メール会議）で、上記内容について了解を得ることとした。

なお、臨時総会は私立部会からの研修部会担当2校が推薦された後に行う。

[3] 東北地区大学図書館協議会臨時総会議事メモ

東北地区大学図書館協議会臨時総会（メール審議：平成30年1月12日通知）において、大学教育部会の存続等について審議し、下記のとおり決定（平成30年2月1日付）した。

1. 大学教育部会を休止する。

- ・今後の情勢変化の中、大学教育部会が必要とされることも予想されるため、廃止はせず休会とする。

2. 研修部会を再開する。

- ・現在休止（平24.9.24総会で決定）している研修部会を再開する。
- ・研修部会を再開するにあたり、現在行われている合同研修会との関連で研修部会設置要項の第2条（活動内容）を整理し、一部改正する。
- ・部会担当大学は、国立部会は秋田大学及び東北大学、公立部会は宮城大学（いずれも先の総会で大学教育部会に推薦された大学をスライド）、私立部会は、研修部会設置要項第3条第3項に基づき2名とし、担当大学は12月中を目途に私立部会で選出した。

3. ウェブサイト運用部会は引き続き休会とし、業務は常任幹事館の東北大学が継続して行う。

- ・協議会誌やニュースの掲載等、現在行っている業務以外の必要が生じた場合は、再検討する。

東北地区大学図書館協議会研修部会設置要項

制定 平成 20 年 9 月 18 日

改正 平成 30 年 2 月 1 日

(目的)

第1条 東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に研修部会（以下「部会」という。）を設置し、具体的な研修実施のための企画立案を行い、協議会加盟館員の人材育成と交流の機会を図る。

(活動内容)

第2条 部会は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 部会が主体となって実施する研修の企画
- (2) 研修会会場館（地区）との協力による集合型研修への協力
- (3) 研修結果・成果の協議会ウェブサイト等を利用した公開

(組織)

第3条 部会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 国立大学部会から推薦された者 2名
- (2) 公立大学部会から推薦された者 1名
- (3) 私立大学部会から推薦された者 2名

2. 部会に主査を置く。主査は、委員の互選によるものとする。

(委嘱)

第4条 前条第1項に掲げる委員は、常任幹事館の館長が委嘱する。

(任期)

第5条 第3条第1項に掲げる委員の任期は2年とする。ただし、再任をさまたげない。

(協議会からの援助)

第6条 部会の活動に対して、協議会は必要に応じて援助することができるものとする。

(庶務)

第7条 部会の庶務は常任幹事館において処理する。

(その他)

第8条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は部会が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成 20 年 9 月 18 日から施行する。
- 2 東北地区大学図書館協議会研修検討 WG は、廃止する。

附 則

この要項は、平成 30 年 2 月 1 日から施行する。

[平成29年度決算書(案)]

自 平成29年9月 1日
至 平成30年8月31日

項目	29年度予算額	29年度決算額	増減(△)	摘要
(収入)	円	円	円	
前年度繰越金	1,795,079	1,795,079	0	
会費	945,000	945,000	0	15,000円×63館
雑収入	140,017	140,016	△ 1	協賛広告 協議会誌第69号(20,000円×7社) 郵貯等利子(16円)
計	2,880,096	2,880,095	△ 1	

(支出)	円	円	円	
会誌印刷費	450,000	443,310	△ 6,690	会誌第69号
総会補助費	300,000	300,000	0	第72回(秋田公立美大:追加、100,000円) 第73回(東北学院大:200,000円)
事業費	200,000	200,211	211	フレッシュパーソンセミナー(135,490円) 合同研修会(64,721円)
部会活動費	200,000	249,841	49,841	大学教育部会委員旅費等(198,311円) 研修部会委員旅費(51,530円)
事務費	40,000	40,000	0	東北大學(事務局)
通信運搬費	40,000	11,784	△ 28,216	会費納入依頼郵送料
積立繰入金	94,500	94,500	0	記念事業基金に繰入
会議費	20,000	71,950	51,950	29.11.28幹事会幹事館出席旅費
消耗品費	20,000	20,000	0	会誌送付用封筒等
雑費	30,000	29,364	△ 636	総会事前打合せ及び会計監査旅費等
予備費	1,485,596	0	△ 1,485,596	
次年度繰越	0	1,419,135	1,419,135	
計	2,880,096	2,880,095	△ 1	

[平成29年度記念事業基金決算書(案)]

自 平成29年9月 1日
至 平成30年8月31日

項目	29年度予算額	29年度決算額	増減(△)	摘要
(収入)	円	円	円	
前年度繰越金	454,228	454,228	0	
積立金	94,500	94,500	0	記念事業実施のための積立
利息	4	4	0	郵貯利子
計	548,732	548,732	0	

(支出)	円	円	円	
事業費	0	0	0	
予備費	0	0	0	
次年度繰越	548,732	548,732	0	
計	548,732	548,732	0	

平成29年度監査報告

平成29年度東北地区大学図書館協議会監査報告

1. 日 時：平成30年9月6日（木）14：00～15：00

2. 場 所：東北大学附属図書館

3. 監査対象期間：平成29年9月1日～平成30年8月31日

4. 監査結果：

東北地区大学図書館協議会会則第7条に基づき、東北地区大学図書館協議会の監査対象期間に係る収支計算書等について監査を行いました。監査に当っては会計帳簿の調査及び計算書類の検討等通常必要と認められる手続きで実施しました。

監査の結果、上記計算書類は、前事業年度と同一の基準及び手続きに基づき、当該事業年度の収支の状況及び財産の状況を適正に示しているものと認めます。

平成30年9月6日

監査館

岩手県立大学メディアセンター

図書事務員 木村祐子 

東北医科薬科大学附属図書館

事務課係長 島田あすか 

平成30年度事業計画（案）

平成30年9月1日～（平成31年）8月31日

1. 第73回総会の開催

平成30年9月21日(金)東北学院大学を当番館として開催

2. 会誌第70号の刊行

(平成31年) 5月頃の予定

3. 研修部会の企画・運営による研修の開催

フレッシュパーソンセミナー(平成31年7月上旬予定)

ほか

4. 合同研修会の開催

開催当番 福島地区の予定(次頁のとおり)

5. 職員の表彰

① 図書館活動又は図書館情報学の研究、調査等に優れた業績のあった者

② 協議会の運営、発展のために功績のあった者

6. 記念事業基金の積立

平成30年度通常会計から、記念事業基金(94,500円)を
繰入予定

27	岩 手	岩手大学 「図書館のコミュニケーション能力を考える～メディアリテラシーからの考察と初歩的な対応手法を学ぶ～」
28	秋 田	秋田大学 「これから大学図書館員が進むべき方向を探る～オープンサイエンスが秘める可能性～」
29	山 形	山形大学 「著作権法改正と図書館サービス」
30	福 島	
(31)	宮 城	
(32)	青 森	
(33)	岩 手	

注：会場大学の決定については、当番地区において協議するものとする。

平成30年度合同研修会について

(常任幹事館：東北大学附属図書館)

〔提案理由〕

平成30年度は 福島地区が開催当番の予定になって
いるので、確認願いたい。

〔参考〕

東北地区大学図書館協議会合同研修会開催地区

(平成28年9月30日承認)

年度	当番地区	会場大学「テーマ」
22	秋 田	秋田大学 「図書館を守る」
23	山 形	山形大学 「学生、教職員そして社会が求める 大学図書館職員像」
24	福 島	福島大学 「図書館における学習支援に関する サービスの現状と展望について」
25	宮 城	東北大学 「アクティブラーニングとは何か？ その実践とは？：アクティブラーニングを通じて大学図書館と大学 のつながりを考える」
26	青 森	弘前大学 「電子書籍サービスと学習・教育支援」

[平成30年度予算書(案)]

自 平成30年 9月 1日
至 (平成31年) 8月31日

項目	29年度予算額	30年度予算額	増 減(△)	摘要
(収入)	円	円	円	
前年度繰越金	1,795,079	1,419,135	△ 375,944	
会 費	945,000	945,000	0	15,000円×63館
雑 収 入	140,017	140,016	△ 1	協賛広告 協議会誌第70号 (20,000円×7社) 郵貯等利子 (16円)
計	2,880,096	2,504,151	△ 375,945	

(支出)	円	円	円	
会誌印刷費	450,000	450,000	0	会誌第70号
総会補助費	300,000	200,000	△ 100,000	第74回(山形地区:200,000円)
事業費	200,000	200,000	0	合同研修会補助, 表彰関係, セミナー補助
部会活動費	200,000	200,000	0	研修部会(会議開催, 研修会開催等)
事務費	40,000	40,000	0	東北大大学(事務局)
通信運搬費	40,000	40,000	0	郵送料等
積立繰入金	94,500	94,500	0	記念事業基金に繰入
会議費	20,000	20,000	0	幹事会, 総会打合せ等
消耗品費	20,000	20,000	0	会誌送付用封筒等
雑費	30,000	30,000	0	会計監査旅費等
予備費	1,485,596	1,209,651	△ 275,945	
計	2,880,096	2,504,151	△ 375,945	

[平成30年度記念事業基金予算書(案)]

自 平成30年 9月 1日
至 (平成31年) 8月31日

項目	29年度予算額	30年度予算額	増 減(△)	摘要
(収入)	円	円	円	
前年度繰越金	454,228	548,732	94,504	
積立金	94,500	94,500	0	通常会計から繰入
利息	4	4	0	郵貯利子
計	548,732	643,236	94,504	

(支出)	円	円	円	
事業費	0	0	0	
予備費	0	0	0	
次年度繰越	548,732	643,236	94,504	
計	548,732	643,236	94,504	

東北地区大学図書館協議会研修部会の活動について

1. 研修部会名簿

任期：平成29年9月1日～（平成31年）8月31日

部会	所 属	職 名	氏 名
国立	秋田大学附属図書館	主 査	杉山 穎広
国立	東北大学附属図書館 工学分館	係 員	上村 法子
公立	宮城大学学術情報 センター	主任主査	安藤 美保
私立	青森中央学院大学・ 青森中央短期大学図書館 情報センター	リーダー	葛西 崇文
私立	東北学院大学図書館	係 員	内藤 由香

2. 研修部会開催状況

- 第1回研修部会(キックオフミーティング)議事メモ
期 日：平成30年7月25日（水）15：00～16：40

会 場：東北大学附属図書館1号館2F小会議室

出席者：杉山禎広（秋田大）、上村法子（東北大）、
安藤美保（宮城大）、葛西崇文（青森中央学院大）、
内藤由香（東北学院大）

陪 席：小陳左和子・田口睦夫（協議会事務局：東北大）
議 事：

キックオフとなるミーティングにつき、事務局小陳が
議長となり、進行した。
はじめに出席者の自己紹介があった後、以下のとおり
審議・意見交換を行った。

1. 東北地区大学図書館協議会及び研修部会について
事務局から、協議会の現状及び研修部会再開の経緯
について説明があった後、協議会における研修部会の
位置付け・役割について確認した。

2. 研修部会の体制について

東北地区大学図書館協議会研修部会設置要項第3条第
2項に基づき、委員の互選により、主査に下記名を選任し
た。また、庶務幹事を置くこととし、下記名を選任した。

主 査：葛西 崇文（青森中央学院大）

庶務幹事：上村 法子（東北大）

3. 今後の活動、スケジュールについて

- (1) フレッシュパーソンセミナーの企画・運営について
 - ・今後は、フレッシュパーソンセミナーを隔年で行うことを確認した。
 - ・次回のフレッシュパーソンセミナーを、2019年7月上旬開催することとした。
 - ・受講対象者について、これまでどおり年齢や業務経験年数の制限は設けないこととした。前回は、基本編（午前）と発展編およびグループワーク（午後）に区分し、業務経験により午前のみ、午後ののみの参加も可としており、次回も参加しやすい工夫をすることとした。なお、プログラムについては、今後検討する。

・開催までのスケジュールについては、資料5の案のとおり、本年中にプログラム骨子を作成して講師候補者を選任し、年度末までに講師の内諾を得、プログラム内容を決定することとした。プログラム骨子について、メールで協議を行うこととした。

(2) 「大学図書館職員初任者マニュアル」の改訂について

- ・研修部会で作成し改訂した「大学図書館職員初任者マニュアル」（第2版、平成24年3月31日発行）が他地区の大学で利用されている実績もあり、今後これを改訂することとした。
- ・委員各自で全体を一読した上で、改訂が必要な項目を洗い出し、項目ごとに担当者および執筆者を決めていくこととした。

(3) その他の活動について

- ・フレッシュパーソンセミナー以外の研修等について、意見交換を行った。
- ・東北地区的大学図書館職員が受講可能な研修や、必要と考えられる研修について、経験年数や職位ごとに俯瞰できるような研修ロードマップを作成してはどうかとの意見があり、今後検討を行っていくこととした。

今後の活動に向けて、研修部会メーリングリストを作成することとした。メーリングリストにて、主としてフレッシュパーソンセミナーのプログラム骨子について協議を進めるためのとして、前回の準備や運営に関する資料や講義資料を事務局からメールで送付することとした。

フレッシュパーソンセミナーのプログラム骨子や講師候補者を決定するため、次回の部会を12月上旬に開催することとした。

災害時における各加盟館の被害・復旧状況の情報集約・公表について

（提案館：東北大学附属図書館）

案 件	災害時における各加盟館の被害・復旧状況の情報集約・公表について
提 案 理 由	<p>地震等の災害により、東北地区的大学が被災した場合、幹事館が中心となり、各加盟館の被害・復旧状況について情報を収集し、協議会ウェブサイト等での公表や関係組織への情報提供を行う必要があると考える。各加盟館には、可能な限り協力を仰ぎたい。</p> <p>国内各地で地震や豪雨等の災害が頻発している昨今、このことについて改めて確認しておきたい。</p> <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北地方太平洋沖地震による東北地区大学図書館協議会加盟館の被害状況（平成23年4月） 〔参照〕http://www.library.tohoku.ac.jp/tohokuchiku/earthquake.pdf ・東北地区国立大学図書館防災連絡網設置要項（平成12年4月20日決定） ・東北地区大学図書館協議会公立部会防災連絡網設置要項（平成12年9月20日決定）

【参考】『東北地区大学図書館協議会誌』第 63 号(平成 24 年 4 月)

1. 東北地方太平洋沖地震による東北地区大学図書館協議会加盟館の被害状況 [抜粋]

平成 23 年 4 月下旬までに取りまとめた東北地区大学図書館協議会加盟館における被害状況は、以下のとおりである。

なお、以下の被害状況については、本協議会ホームページにも記載しておりますことを申し添えます。

東北地方太平洋沖地震による東北地区大学図書館協議会 加盟館の被害状況

【国立】

図書館名： 弘前大学附属図書館

[3/12 の状況]

(開館状況)

通常通り開館

(被害状況)

特段なし

[4/7 の状況]

(開館状況)

平成 23 年 4 月 8 日 本館・医学部分館とともに臨時閉館
(設備等被災状況)

特になし

ただし、7 日の地震後より 8 日 13 時 30 分頃まで停電、
メールサーバー 8 日 17 時過ぎ復旧

図書館名： 岩手大学情報メディアセンター図書館

(開館状況)

3 月 12 日～ 震災のため休館

3 月 24 日～ 学生・教職員の学習・研究スペースとして図書館を部分開放

開放箇所：1 階ロビー及び 2 階閲覧室のみを開放

開放時間：9 時～17 時(平日のみ開放)

4 月 8 日～ 余震のため休館

4 月 11 日～ 部分開放を再開

4 月 18 日～ 一部図書の貸出を再開

5 月 9 日～ 制限付で図書館を開館

開館時間：平日 9 時～21 時、土日 10 時～18 時

但し、3 階以上の利用は 19 時まで

電動書庫・積層書庫への立入を制限

利用対象者：学生・教職員(一般への開放は当分の間行わない)

(3 月 11 日の地震による被害状況)

- ・ 7 割程度の図書資料が崩落
- ・ 建物内外壁等のヒビ・亀裂、トイレ等の壁面タイルの落下
- ・ 2 階 旧館と増築部分(南側)接合部分一部破損
- ・ 3 階 旧館と増築部分(東側、南側)接合部分破損、天井

パネル(金属板)一部落下

- ・ 5 階 4 割程度の書架転倒、キャビネットの転倒、机等の移動
- ・ 電動書庫 電動書架動作不良(23 年度改修予定)

(4 月 7 日の余震による被害状況)

- ・ 1 割程度の図書資料の落下、若干数の図書資料の破損
- ・ 書架棚板の一部破損(書架の転倒等はなし)

図書館名： 東北大学附属図書館

【本館】

(開館状況)

3/11 の復旧作業のため閉館中、4/11 に一部開館予定

(人的被害)

なし

(図書の被害)

[3/11 の被害]

1 号館・2 号館の図書数十万冊が落下

[4/7 の被害]

1 号館 2 階学生閲覧室、2 号館各階の一時整理復旧済みの図書約 2 万冊が落下

(施設の被害)

[3/11 の被害]

壁のひびが多数発生し、一部のモルタル・天井がはがれて落下

[4/7 の被害]

特になし

(備品の被害)

書架が一部破損、貴重図書室の一部の展示ケース・キャビネットが倒壊

【医学分館】

(開館状況)

以下に記載の 3/14 からの開館方法のまま、特に臨時閉館はしない

[3/14 からの開館方法]

1 階(ラウンジの休憩スペース、閲覧席、パソコンコーナー)のみ限定開館

[以下略]

東北地区国立大学図書館防災連絡網設置要項

平成12年4月20日 第31回国立
大学図書館東北地区協議会決定
平成16年4月22日 第35回東北
地区国立大学図書館協会改正

(目的)

第1条 国立大学図書館協会東北地区協会会則（以下「会則」という。）第2条に定める会員（以下「会員」という。）において地震等による激甚な災害が発生した際、会員における図書館業務の維持に関し、会員間の連絡調整を行うため東北地区防災連絡網（以下「地区防災連絡網」という。）を設置する。

(地区防災連絡網)

第2条 地区防災連絡網は会員により構成し、会員間の連絡調整を行うため地区防災連絡館を置く。

2 地区防災連絡館は、国立大学図書館協会の東北地区理事館を充て、地区連絡館が被災した場合は、東北地区国立大学図書館協会総会の当番館がこれに代わるものとする。

(地区防災連絡館)

第3条 災害発生時における被災館との連絡は、情報の混乱等をさけるため地区防災連絡館が必要な間、集約的に行う。但し、会員における固有の連絡は、この限りとしない。

2 災害発生から被災館が復旧するまでの間、相互利用等会員間に共通する日常業務の維持に関して協議の必要が生じた場合は、地区防災連絡館が調整を行う。

3 地区防災連絡館は、地区防災連絡網の確認及び会員の防災意識を高めるため、原則として年1回以上の連絡訓練を行うものとする。

4 地区防災連絡館は、必要がある場合は、国立大学図書館協会の他地区防災連絡館等との連絡にあたるものとする。

5 地区防災連絡館は、東北地区大学図書館協議会の公立大学及び私立大学の代表との連絡窓口になるものとする。

(会員の連絡窓口の設置)

第4条 会員に連絡窓口を置く。

2 連絡窓口に変更があった場合は、地区防災連絡館に連絡するものとする。

(雑則)

第5条 この要項に定めるもののほか、地区防災連絡網に関する必要な事項は、会則第5条に定める会議において定める。

附 則

この要項は、平成12年4月20日から施行する。

附 則

- 1 この要項は、平成16年4月22日から施行する。
- 2 第2条2項の規定において、東北地区理事館と東北地区国立大学図書館協会総会の当番館が重複した場合、地区防災連絡館は会則第5条に定める総会において決定する。

東北地区大学図書館協議会公立部会防災連絡網設置要項

平成 12 年 9 月 20 日

東北地区大学図書館協議会（公立部会）

（目的）

第1条 東北地区大学図書館協議会公立部会加盟館（以下「公立部会加盟館」という。）において地震等による激甚な災害により被災した際、公立部会加盟館における図書館業務の維持に関し、公立部会加盟館間の連絡調整を行うため東北地区防災連絡網（以下「地区防災連絡網」という。）を設置する。

（地区防災連絡網）

第2条 地区防災連絡網は、公立部会加盟館により構成し、公立部会加盟館間の連絡調整を行うため地区防災連絡館を置く。

2 地区防災連絡館は、東北地区大学図書館協議会公立部会幹事館（以下「公立部会幹事館」という。）を充て、公立部会幹事館が被災した場合は、公立部会会計監査館がこれに代わるものとする。

（被災館）

第3条 地震等による激甚な災害に被災した公立部会加盟館（以下「被災館」という。）は、被災状況を地区防災連絡館へ連絡するものとする。

（地区防災連絡館）

第4条 災害発生時における被災館との連絡は、情報の混乱を避けるため地区防災連絡館が必要な間、集約的に行う。ただし、個々の公立部会加盟館における固有の連絡は、この限りとしない。

2 災害発生から被災館が復旧するまでの間、相互利用等公立部会加盟館に共通する日常業務の維持に関して協議の必要が生じた場合は、地区防災連絡館が調整を行う。

3 地区防災連絡館は、地区防災連絡網の確認及び公立部会加盟館の防災意識を高めるため、原則として年1回以上の連絡訓練を行うものとする。

4 地区防災連絡館は、東北地区大学図書館協議会加盟の国立部会及び私立部会の代表との連絡窓口になるものとする。

（会員の連絡窓口の設置）

第5条 公立部会加盟館に連絡窓口を置く。

2 連絡窓口に変更があった場合は、地区防災連絡館に連絡するものとする。

（雑則）

第6条 この要項に定めるもののほか、地区防災連絡網に関する必要な事項は、東北地区大学図書館協議会公立部会総会において定めるものとする。

附 則

この要項は、平成 12 年 9 月 20 日から施行する。

第74回総会の当番地区(館)について

(常任幹事館：東北大学附属図書館)

[提案理由]

第74回総会は 山形地区 が当番の予定になっているので、確認願いたい。

[参考]

東北地区大学図書館協議会総会当番地区(館)予定
(第81回まで、平成29年9月22日承認)

回	年度	当番地区	会 場 大 学	備 考
64	21	宮 城	仙台白百合女子大学	
65	22	秋 田	国際教養大 学	
66	23	山 形	山 形 大 学	
67	24	宮 城	東 北 大 学	
68	25	青 森	八 戸 工 業 大 学	
69	26	岩 手	岩 手 大 学	
70	27	宮 城	宮 城 教 育 大 学	
71	28	福 島	福 島 大 学	
72	29	秋 田	秋田公立美術大学	
73	30	宮 城	東 北 学 院 大 学	
74	(31)	山 形		
75	(32)	青 森		
76	(33)	宮 城		
77	(34)	岩 手		
78	(35)	福 島		
79	(36)	宮 城		
80	(37)	秋 田		
81	(38)	山 形		

注1：会場大学については、当該地区において協議の上、開催予定の前年度総会に報告するものとする。

注2：開催地区的ローテーションの確認について

- ①宮城地区は、他地区より大学の数が多いので、3年に1回割り振る。
- ②その他の地区は、次のローテーションによる。
青森地区、岩手地区、福島地区、秋田地区、山形地区

○ その他（承認事項）

総会1：読書バリアフリー法（仮称）への対応について

(提出館：東北大学附属図書館)

提 案 理 由	視覚障害者等の著作物利用を促進する「マラケシュ条約」の締結について国会で承認され、それに対応する形で著作権法についても改正され、現在は「読書バリアフリー法」（仮称）制定にむけた検討が進められている。これらの動きを受けて、今後大学図書館における視覚障害者等へのサービス改善が求められることが予想されるが、各大学での視覚障害者等へのサービスの現状、また今後の改善を検討していればその内容について、今後の参考とするために伺いたい。
---------	--

東北大学附属図書館	視覚障害者に向けてのサービスとしては、現状では、カウンターに「筆談用具」を常備している程度である。読書バリアフリーサービスについては、現在学内には対象となる利用者がいないため実施はしていないが、今後、学内の特別支援担当部署との連携により、OCRを利用して音声読み上げ等対応のコンテンツの作成を検討する。
宮 城 教育大学附属図書館	聴覚障害・視覚障害の学生・利用者と応対するため、カウンターに簡易筆談器およびループを常備している。また、閲覧室に車椅子用閲覧席を2席設けている。視覚障害者用の資料として『点字毎日』（活字版・音声版）、『点字ジャーナル』を購読している。なお「読書バリアフリー法」制定に備えたサービスについては、今後、検討したい。
秋田大学附属図書館	現在、視聴覚障害者等に向けた配慮として、施設等（スロープ、点字パネル、トイレ等）を整備済みであるが、読書支援のためのサービスは必要とする利用者がいないため特に実行していない。
福島大学附属図書館	視覚障害者に向けてのサービスとしては、現状では、拡大機を設置している。また、学内のアクセシビリティ支援室からの要望もあり、図書館カウンター前に「耳の不自由な方はこのカードを提示してください。筆談で対応します」と書かれたカードを置いて、筆談による対応を行うようにしている。今後の対応については未検討である。
青森県立保健大学附属図書館	本学は、拡大読書器や読書補助具（リーディングトラッカー、ループ）を用意していますが、現在学内に対象となる利用者がいないため、利用されている様子は見られません。
宮城大学学術情報センター	本学には、現在重度身体障がいの学生が1名いるが、授業に関連した資料類などは、支援を担当する部署がPDFにするといった対応を実施している。図書館では読書のバリアフリーサービスは行っておらず、要望があればその都度検討し対応することとしている。著作権法により、図書館では読書支援が必要な利用者に対し、点字や録音図書などの作成が認められているので、各館で作成した資料をILLなどで共有利用ができるようになれば、読書支援へのハードルが少し下がるのではないかと思う。
国際教養大學中嶋記念図書館	視覚障害者への支援サービスとしては、卓上型拡大読書器1台とポータブル型2台を用意し、利用案内など個別に対応している。読書バリアフリーサービスについては、現在学内には対象となる利用者がいないため実施していない。
山形県公立大学法人附属図書館	当方では、カウンターで対応できるようになりますが、現在学内には対象となる利用者がいません。
東北女子大学附属図書館	本学では、カウンターに「筆談用具」と「タイポスコープ」を常備しています。サービスについては、現在学内において対象となる利用者がいないため、実施しておりません。しかし、今後のことを踏まえ、学内の部署と連携をとりサービス等を検討していく必要があると考えています。

八戸学院 図書館	視覚障害の学生は在籍せず、当館の立地条件等から利用者に視覚障害者も居ない為、点字図書館との連携等、対応は検討されているが、実施されていないのが現状です。 但し、授業教材として点字資料を数点所蔵しています。
青森中央 学院大学・ 青森中央 短期大学 図書館情報 センター	現在学内には対象となる利用者がいないため実施していない。本学図書館情報センターは、地域住民にも開放しているため、もし視覚障害等を有する利用者の利用希望があった場合には、個別に対応を検討し、出来る範囲でのサービス提供を行うことになると思われる。
修紅短期 大 学 図書館	現在、対象となる学生がいないため、特に何も準備、実施等はしていませんが、市の公立図書館に団体登録をしていますので、障害者が希望する資料があれば、公立図書館を通して貸し出しを行います。(市の図書館には相談済み)
東北福祉 大 学 図書館	現状としては、視覚障がい者向けの拡大器を2台設備している。 また、障がい学生支援室と情報を共有し、障がい学生が求めるサービスを提供できるように努めている。 「読書バリアフリー法」(仮称)については、電子書籍の整備(PCによる読み上げ可能なため)をより充実させるべきと考えているが、国内における出版状況が欧米諸国に比べ進んでいない現状に苦慮している。 また、今後サピエ図書館、国立国会図書館との連携も検討課題と考えている。
東北文化 学園大学 総合情報 センター 図書館	視覚障がい者用に拡大機を設置しているが、対象となる利用者がいないため、その他のサービス（点字資料は所蔵、対面朗読サービス等）は実施していない。
尚絅学院 大 学 図書館	本学には大型絵本の所蔵はあるが、大活字本・触知資料の所蔵はない。 また、これまでに視覚障害者の学生が在学したことなく、今後、個別の学生・入学予定者がある場合に、個別に対応したい。
日本大学 図書館 工学部分館	現在、当館においても対象となる利用者がいないため、実施していません。 なお、今後については、本学図書館全体で協議し、適切な対応を検討したいと考えています。

総会2:図書館独自の収入確保（または経費節減）状況について

(提出館：東北大学附属図書館)

提 案 理 由	従来自己収入の方策に欠けていた大学図書館において、クラウドファンディングや古本募金、特定基金など、独自の取り組みについて多く報告されるようになってきた。東北地区の各大学図書館（または大学の他部局等）においてもそのような取り組みの事例があれば共有し、今後の企画立案の参考としたい。 または、直接の収入に結びつかないまでも、従来の業務の中でコストの見直しなどに積極的に取り組んだ事例などもご教示願いたい。
弘前大学 附属図書館	弘前大学基金の一つとして「古本募金」を2017年度から実施中である。これは、在学生、卒業生、教職員、一般の方々から書籍（CD・DVD等を含む）をお送りいただき、その売却代金をご寄附いただくことにより「弘前大学基金」として役立てる取組みで、2018年度はこの基金をBookHuntingに活用させていただいた。
東北大学 附属図書館	当館ではこれまで、所蔵する貴重書のマイクロフィルムや、古典資料をモチーフにした図書館オリジナルグッズ（絵はがき、クリアファイル、一筆箋、図録など）の販売による収益があるが、今後のさらなる拡充を目指して、検討しているところである。 現在検討している内容としては、古典資料の掲載料・出陳料の徴収、特定基金、クラウドファンディング、ネーミングライツなどである。 なお、古本募金については、図書館ではなく「東北大学基金」の枠組みにより、2018年度から実施中である。
宮城教育 大 学 附属図書館	収入確保の方策について、図書館独自には検討していない。 ただし、古本募金については、図書館ではなく「宮城教育大学基金」の枠組みによって実施することで、運用方法を検討中である。
秋田大学 附属図書館	自己収入の方策として図書館独自で実施しているものはないが、大学全体の取り組みとして「秋田大学みらい創造基金」により寄附を受け付けている。 また、資料廃棄経費節減の取組として学生、教職員及び地域住民を対象とした不要図書のリユース市を開催し無償で提供している。
山形大学 小白川 図書館	当館では、平成29年3月から古本募金を開始している。平成30年3月における実績は76,299円である。 また、理学部において、平成29年9月23日（土）に実施された「科学で東北を盛り上げ隊」@石巻は、クラウドファンディングによる資金調達が行われ、目標金額450,000円に対し、621,000円の寄附を集めることに成功している。

福島大学附属図書館	<p>本学では、2019年に創立70周年を迎えることに伴い、70周年記念事業の中で、新たな外部資金獲得に向けたクラウドファンディングの導入を検討している。図書館としてのクラウドファンディングの可能性等について、関係者間で打ち合わせを行ったところである。</p> <p>その他、食農学類（仮）設置に向けて立ち上げた「福島大学農学支援基金」の枠組みの中で、2017年から古本募金が行われており、集められた募金は、食農学類（仮）設置や運営に関して広く役立てることとなっている。</p>		<p>明示する ・業者選定に際しては「最低価格」での指定を厳格化する (メンテナンス等で本学に不利益が生じた際の保障についての契約を徹底することで管理・運用体制を整えてもらえるようにしていく) その他 ・学内での連絡には使用済み封筒を再利用する</p>
岩手県立大学メディアセンター	除籍図書の処分において、大学祭で1冊100円で古書市を実施している。売却となるのは例年、全体の3~4割程度はあるが、実施により廃棄処分費用を節減している（※売上金は大学の雑入となり、図書館独自の収入とはならない）。	修紅短期大学図書館	一昨年まで、図書館以外にも設置して欲しい（事務室、学科内でまわして閲覧する。等）と希望のあった資料（複数）を購入していましたが、六法など法律関係の資料が多かったため、図書費を圧迫していたこともあり、昨年より、その購入を止めました。その他、購入の見直しを検討中です。
宮城大学学術情報センター	今年度から、寄贈等の未登録図書で所蔵がすでにある図書を中心に、古書店への売り払いを実施している。	東北文化学園大学総合情報センター図書館	<ul style="list-style-type: none"> 図書館独自での収入確保は実施していない。 古本募金きしゃぽんの協働パートナー参加を、学内で検討している。
国際教養大学中嶋記念図書館	<p><収入の確保></p> <ul style="list-style-type: none"> 古本募金 --2018年度開始予定 <p><経費削減></p> <ul style="list-style-type: none"> 雑誌の契約方法の見直し <ul style="list-style-type: none"> -- 冊子体からOnlineに積極的に変更を進めている 複数年契約への変更 <ul style="list-style-type: none"> -- ディスクバリーサービス、データベース、雑誌 		
八戸学院図書館	図書館独自の収入確保は、寄贈や退職教員の図書の副本等を希望者へリユースしています。経費節減対応としては、事務職員内での検討事項などはグループウェアを使用し、ペーパーレス化をしている。		
青森中央学院大学・青森中央短期大学図書館情報センター	古本募金を平成27年度から実施している。しかし、募金額が今までのところ多いとは言えず、収入確保には至っていないため、今後はほかの手段についても検討が必要になる可能性がある。		
岩手医科大学附属図書館	<p>経費節減策として以下を実施している。</p> <p>印刷に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 部署内作業は裏紙を使用 データ保管でよいものは印刷しない、 白黒・両面コピーを心掛ける（不必要的なカラー印刷をしない） <p>消耗品に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> CD・DVDを廃棄する際ケースは再利用、 背ラベルは図書のカバーにのみ貼付（カバー無しの場合は本体） <p>印刷費に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> データスリップの貼付は全図書を対象とせず貸出処理時に貼付 利用のしおり、館内案内、講義資料等は印刷部数を見直し残部を減らす <p>電子資料の契約、支払に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 契約書類の内容へ「版元の障害により利用不可になった場合、相応の返金を求める」旨を 		

第73回総会 講演会資料

大学図書館コレクションの構図と展望

平成30年度東北地区大学図書館協議会
2018年9月21日

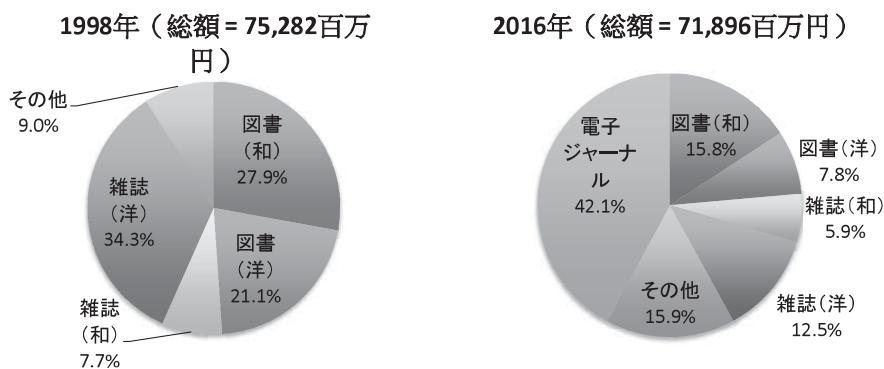
大学図書館コレクションの 構図と展望

佐藤義則
(東北学院大学)

1

1. 大学図書館は既に、デジタル、ネットワークの時代に

※学術情報資源実態調査(文部科学省)における大学図書館
資料費の内訳



2

2. 学術コミュニケーションの変化

- 変化の要因

- 技術の進展

- デジタル技術, インターネット, 電子ジャーナル, SNS...

- 研究者

- 図書館

- 政府機関(および資金提供団体)

※技術的要因とともに、政治的、社会経済的要因

3

学術コミュニケーションの変化と 利害関係者(stakeholders)

- 研究者

- 量的変化

- 新たな研究分野の出現、研究分野の細分化
 - 研究者数の増大(特に、新興国)

- 質的変化

- デジタルな研究環境への進行に伴う一連の活動スタイルの変化
 - 検索、収集、リーディング、執筆、連携、観察、ノート作成、翻訳、データ採取等におけるデジタル機器の利用
 - 学術的記録("Scholarly Record")の範囲の広がりおよび量的拡大

- 出版社

- 1950年代末以降の論文量の増大と巨大産業への成長
 - 1980年代以降のM&A(合併・統合)の進行と寡占化
 - 電子ジャーナルおよびビッグディール

- 図書館

- 電子図書館
 - 機関リポジトリとオープンアクセス

- 政府機関(および資金提供団体)

- オープンアクセスの義務化(研究資金の効率的運用)

4

デジタル化による変化

- バックランド『図書館サービスの再構築』勁草書房, 1994
 - 場所的制約を受けない(どこからでも)
 - 複数の人々が同時に利用可能
 - 容易に複製可能
 - 柔軟性に富む(改訂、再編成、再初期化、結合などが容易)
 - 場所をとらない

5

加えて

- 「一般的な」情報がますますボーンデジタルに
- ますます多くのデジタル情報がインターネットを通じて流通
- 共時的な情報交換が可能
- 多様な情報形式の混在が可能(テキスト、画像(写真、ビデオ)、音声)
- 多様な粒度
- オブジェクト間のリンク、データ間のリンク
- 検索が容易; 発見可能性の向上(見えないものは、無いものと同じ)
- 流通が容易(むしろ、流通を制限するのが課題)
- 利用記録(use metadata)
- 捕捉できなかったものが捕捉可能に

6

捕捉できなかったものが捕捉可能に

「新たな技術は、かつて無料でオープンな公共財であったものの捕捉を可能とする。これは、例えば、深海、大気、電磁スペクトル、宇宙といったたいていの「世界規模のコモンズ」の発展の事例に当てはまる。この以前は捕捉できなかったものを捕捉する力は、資源を競争性と排除可能性が無い（低い）公共財から、持続可能性と保存を確実にするために管理、監視、保護を必要とする共有財へと変化させることで、資源の性質に根本的変化を生み出す」

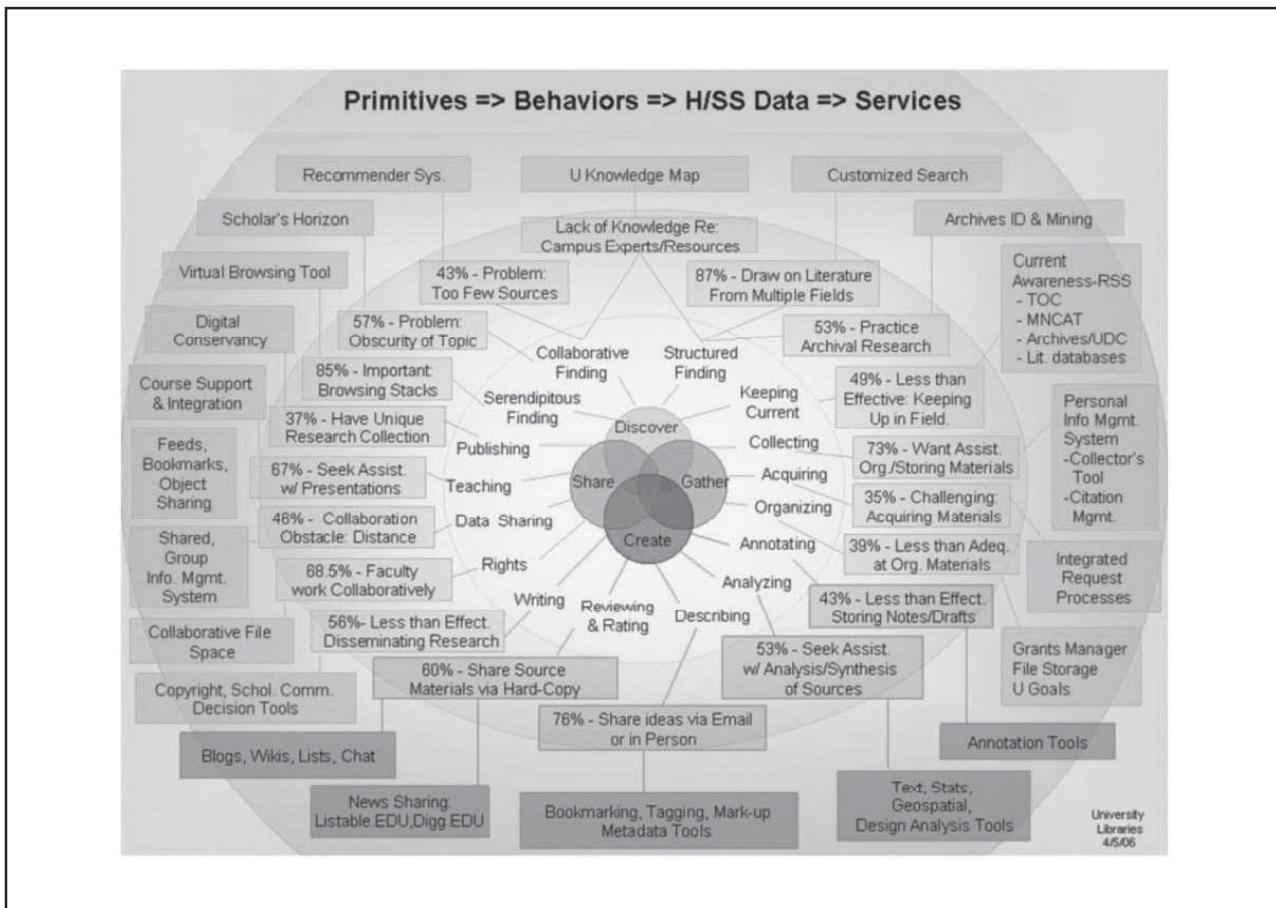
Hess, Charlotte and Ostrom, Elinor. "Introduction: an overview of the knowledge commons," in Charlotte Hess and Elinor Ostrom eds. *Understanding Knowledge as a Commons: From Theory to Practice*. Cambridge, MIT Press, 2007, p. 3 - 26

7

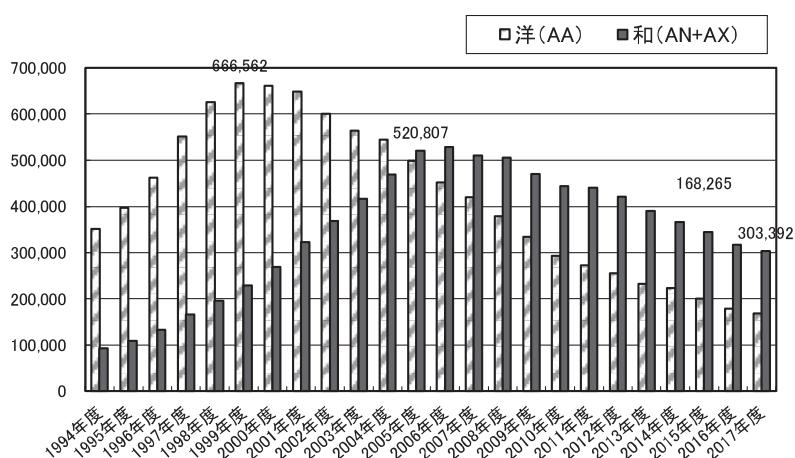
3. デジタル環境と研究者の利用行動

- FRBR (Functional Requirements for Bibliographic Records; 書誌レコードの機能要件)
 - 発見 (find), 識別 (identify), 選択 (select), 入手 (obtain)
- “Scholarly Primitives” (Unsworth, 2000)
 - Discovering, Annotating, Comparing, Referring, Sampling, Illustrating, Representing
- “Scholarly Information Practices in the Online Environment” (Palmer et al., 2009)
 - Searching (Direct searching, Chaining, Browsing, Probing, Accessing)
 - Collecting (Gathering, Organizing)
 - Reading (Scanning, Assessing, Rereading)
 - Writing (Assembling, Co-authoring, Disseminating)
 - Collaborating (Coordinating, Networking, Consulting)
 - Cross-cutting primitives (Monitoring, Notetaking, Translating, Data practices)
- University of Minnesota Libraries, A Multi-Dimensional Framework for Academic Support: A Final Report. 2006

8



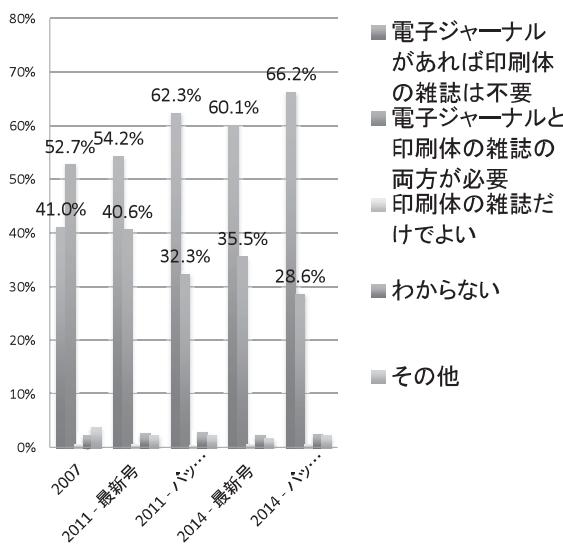
ILLの減少 (オンラインアクセス環境向上の効果)



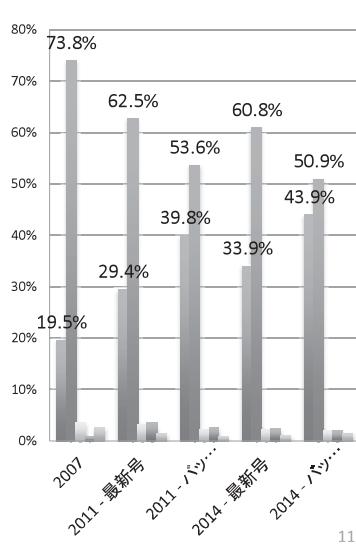
NACSIS-ILL複写リクエスト(完了分)の和洋別推移

印刷体雑誌の必要性(2007 – 2014)

自然科学

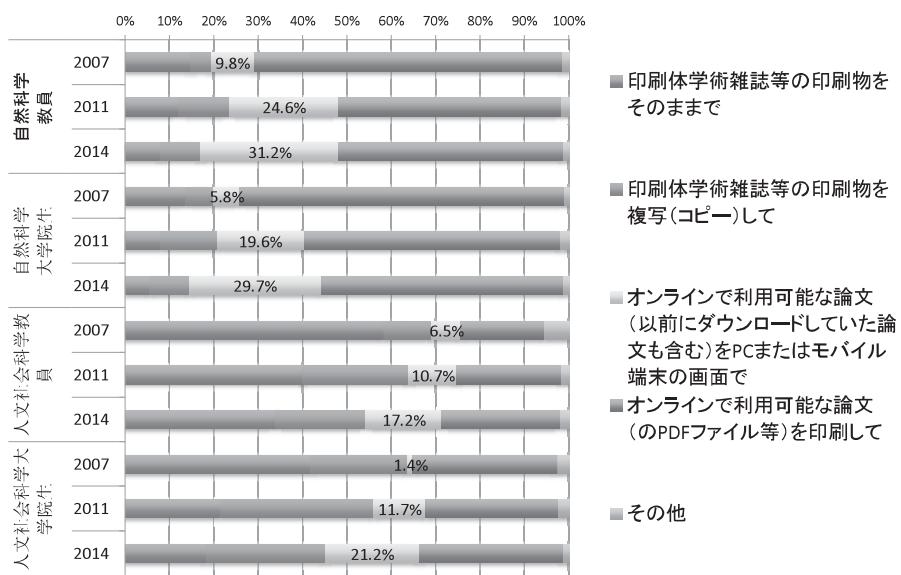


人文社会科学



11

最後に読んだ論文の読み方 (2007 - 2014)



12

4. 図書館コレクションの変化

- 館内所蔵から、ウェブ上の情報資源へ
(所蔵からアクセスへ)
- 単独のコレクションから、集合的コレクションへ
(*collective collection*)
- 共有資源から、公共財へ(?)
- 課題
 - 効率性、持続可能性、公平性の確保
 - コスト負担(誰が、どのように)
 - 保存問題、および真正性の確保(「信頼の枠組み」)

13

館内所蔵から、ウェブ上の情報資源へ

- 電子ジャーナル
- 機関リポジトリ
- 電子書籍
 - PDA(Patron Driven Acquisition)
 - I. アグリゲータの電子書籍リストの図書館目録への組み込み
 - II. 利用要求(あるいは、検索回数)にしたがって購入決定
 - III. コレクションへの組み入れ

14

Gratis OA vs. Libre OA

- Gratis(無料)OA
 - 「無料で利用可能」
- Libre(自由) OA
 - 「閲覧、ダウンロード、コピー、配布、印刷、検索、論文フルテキストへのリンク、インデクシングのためのクローリング、ソフトウェアヘデータとして取り込み、その他」の許容

Peter Suber. "Gratis and libre open access," *SPARC Open Access Newsletter*. 124, 2008.8.
<https://dash.harvard.edu/handle/1/4322580>

15

学術論文のOAの論拠

1. 出版者といった別の団体へ権利を移転しない限りおよび移転するまでは、著者が自らの著作の著作権者である
2. 研究者は基本的に研究論文の執筆に対し報酬を受けすることはない。研究者は自らの論文を、収益を失うことなく広く頒布することができる

Peter Suber. *Open Access*. Cambridge, MA: MIT Press. 2012

16

OAに向かう二つの道(BOAI-2002)

- Green roads vs. Gold roads
- セルフ・アーカイビング(グリーンロード)
 - 研究者が査読済み論文をデポジットするためには、そのためのツールと支援が必要。OAI規格への準拠(OAI-PMH)
- オープンアクセス・ジャーナル(ゴールドロード)
 - 著者(資金提供団体)への課金によって、無料、かつできる限り制限なしに、オープンアクセスを提供

17

オープンアクセス出版： 理念からビジネスへ

- OA出版
 - APC(Article Processing Charge)の徴収
 - 研究資金からの拠出
- 意義
 - 「市場の二面性」の打破、すなわち著者サイドの市場で課金が行なわれることで出版者間の競争を期待(?)
- Full(Pure) OAジャーナル vs Hybrid OAジャーナル
 - Full OAジャーナル専門出版社 + 学会系等
 - 大規模商業出版社の対応
 - 英国をはじめ、結果的に、Hybrid OAジャーナルへの掲載が優勢のままに

18

その他のOA, 擬似(似非?)OA

- Delayed OA (Bronze OA)
 - 購読契約による雑誌であるが、エンバーゴ期間終了後に出版者によって該当論文が無料提供されるOA
- 学術ソーシャル・ネットワーク
 - Research Gate, Academia.edu等
 - (機関リポジトリと違って)著作権の遵守のチェックなし、このため半数以上は違法に掲載、提供
- Black OA
 - Sci-Hub, LibGenといった海賊行為のサイトによる提供

Piwowar, Heather et al. "The state of OA: a large-scale analysis of the prevalence and impact of open access articles," *PeerJ*, 2018.2
<https://doi.org/10.7717/peerj.4375>

19

OAの現状(1)

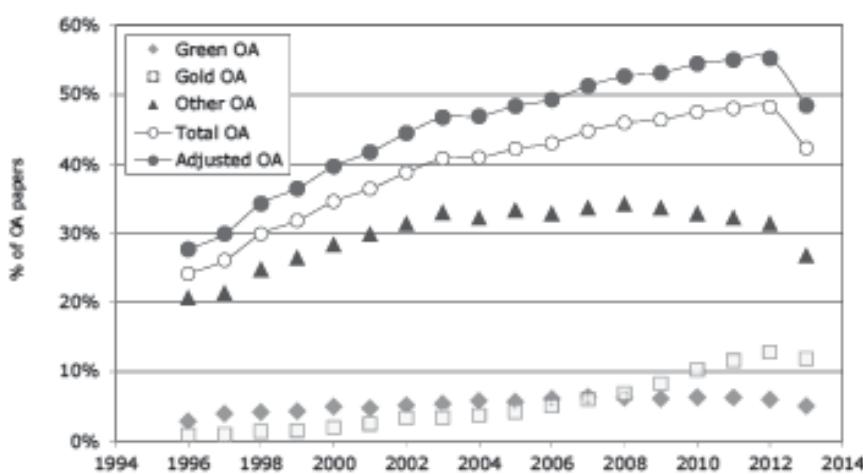


Figure 9 Percentage of freely available peer-reviewed papers as measured in April 2014, 1996–2013

Éric Archambault, Didier Amyot, Philippe Deschamps, Aurore Nicol, Françoise Provencher, Lise Rebout & Guillaume Roberge. Proportion of Open Access Papers Published in Peer-Reviewed Journals at the European and World Levels—1996–2013³⁰

OAの現状(2)

Access Type	Crossref-DOI All journal articles with Crossref DOIs, all years. ("Articles with DOIs" in Fig.1)		WoS-DOIs All citable WoS articles with DOIs, 2009-2015.		Unpaywall-DOIs All articles accessed by Unpaywall users over a 1-week period in 2017	
	estimate	95% CI	estimate	95% CI	estimate	95% CI
OA (all types)	27.9%	27.6-28.2	36.1%	36.0-36.2	47.0%	46.7-47.3
Bronze OA	16.2%	16.0-16.5	12.9%	12.6-13.2	15.3%	15.0-15.6
Hybrid OA	3.6%	3.3-3.9	4.3%	4.0-4.6	8.3%	8.0-8.6
Gold OA	3.2%	2.9-3.5	7.4%	7.1-7.7	14.3%	14.0-14.6
Green OA	4.8%	4.5-5.1	11.5%	11.2-11.8	9.1%	8.8-9.4
Closed	72.0%	71.8-72.4	63.9%	63.8-64.0	53.0%	52.7-53.3

Piwowar, Heather et al. "The state of OA: a large-scale analysis of the prevalence and impact of open access articles," *PeerJ*, 2018.2 <https://doi.org/10.7717/peerj.4375>

21

集合的コレクション

- HathiTrust
 - 2008年設立
 - CIC (Committee on Institutional Cooperation; 現在はBig Ten Academic Alliance)とカリフォルニア大学(全体)によって
 - 1600万点超の電子化コレクションの集合
 - ほとんどが、Google Books, Internet Archiveによる遡及的デジタル化の成果
 - 5コンソーシアム、144機関が加盟(2018年9月4日現在)
- Shared Print Program
 - HathiTrustの電子化コレクションをもとにした、重複する印刷体の除去、管理
 - 目的: サービスの向上、スペースの節約
 - ベースとなるメタデータの作成とAPIによる提供
 - 戦略的意思決定、組織(要員)、技術的基盤
 - 協定(インセンティブ、罰則を含む)の整備

22

ライトサイジング

- コレクション規模の適正化

- PDAやHathiTrustによって得られた印刷体の重複除去の可能性の具体化

- 概要：

「ライトサイジングはウェーディングに代わる目新しいだけの用語ではない。ライトサイジングは、図書館員が現在の構成員にサービス提供を行うために、図書館を最適なサイズに構成するための適切な方式を整備したことを意味する。それは、コンテンツとフォーマットの両方に關し、適正な資料の組み合わせだけでなく、必要な情報が館内で入手できない場合に迅速かつ効率的に手に入れるための一連の適正なサービスをも意味する。」

Ward, Suzanne M. 2015. *Rightsizing the Academic Library Collection.*

Chicago, IL: ALA, 148 p.

23

日本における可能性

- 機関リポジトリ搭載の紀要類

- 国立国会図書館デジタル化コレクション（+デジタル資料送信サービス）

- 約150万点 + インターネット公開（著作権など権利状況に問題がないことが確認できたもの）約53万点

- その他

24

NACSIS-CATにおける重複状況 (2018年3月末現在)

- ・全所蔵レコード数 135,333,915点
- ・すべてのタイトルについて、全国の所蔵を20までとした場合、理論上では70,373,363点(全所蔵の52%)を削減可能
- ・一方で、重複無しのユニークな所蔵が4,330463点(3.2%)、所蔵数5以下の所蔵が13,448,557点(9.9%)存在
- ・ランキング上位の内容

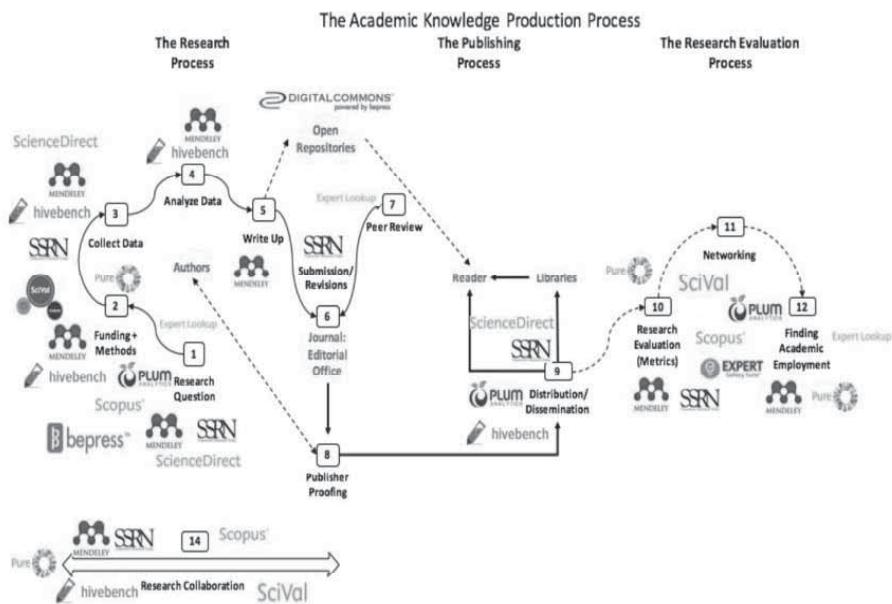
25

Rank	NCID	重複数	タイトル / 責任表示	版	出版国	出版年
1	BN0011219X	1058	新和英大辞典 / 増田綱編	第4版	ja	1974
2	BN00153652	995	研究社新英和大辞典 / 小稻義男編集代表	第5版	ja	1980
3	BA56088156	946	研究社新英和大辞典 = Kenkyusha's new English-Japanese dictionary / 竹林滋編 者代表	第6版	ja	2002
4	BN09918103	946	小学館ランダムハウス英和大辞典 / 小学館ランダムハウス英和大辞典第二版 編集委員会編	第2版	ja	1994
5	BN0722409X	915	六法全書 / 我妻栄, 宮沢俊義編		ja	1948
6	BA34997700	897	岩波哲学・思想事典 / 廣松涉 [ほか] 編		ja	1998
7	BA84292037	886	広辞苑 / 新村出編	第6版	ja	2008
8	BN12783614	878	新編英和活用大辞典 / 市川繁治郎編集代表		ja	1995
9	BB02038967	868	これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学 /マイケル・サンデル著 ; 鬼澤忍訳		ja	2010
10	BA59524593	856	類語大辞典 / 柴田武, 山田進編		ja	2002
11	BA34489572	850	岩波理化学辞典 / 長倉三郎 [ほか] 編集	第5版	ja	1998
12	BA49258744	840	日本国語大辞典 / 日本国語大辞典第二版編集委員会, 小学館国語辞典編集 部編	第2版	ja	2000
13	BA38286103	818	広辞苑 / 新村出編	第5版	ja	1998
14	BA62682504	805	研究社新和英大辞典 / 渡邊敏郎, Edmund R. Skrzypczak, Paul Snowden編	第5版	ja	2003
15	BN0066285X	805	Grosses deutsch-japanisches Wörterbuch / 相良守峯編		ja	1958
16	BN10574759	805	知の技法 : 東京大学教養学部基礎演習「テキスト」小林康夫, 船曳建夫編		ja	1994
17	BN06276622	802	日本国勢図会 / 矢野恒太記念会編		ja	1991
18	BN00117433	797	國史大辭典 / 国史大辞典編集委員会編		ja	1979
19	BA52456950	794	人間と社会のつながりをとらえる「対人関係・価値観」 / 吉田富二雄編		ja	2001
20	BA52886031	793	心の健康をはかる「適応・臨床」 / 松井豊編		ja	2001
21	BB00705732	793	もし高校野球の女子マネージャーがドッカーハンディメントを読んだら / 岩 崎夏海著		ja	2009
22	BA52259949	789	人間の内面を探る「自己・個人内過程」 / 山本眞理子編		ja	2001
23	BN14027099	788	岩波生物学辞典 / 八杉龍一 [ほか] 編集	第4版	ja	1996
24	BA39567232	777	心理学辞典 / 中島義明 [ほか] 編集		ja	1999
25	BA60236519	763	レポート・論文の書き方入門 / 河野哲也著	第3版	ja	2002
26	BN0060430X	761	Kenkyusha's new dictionary of English collocations / edited by Senkichiro Katsumata	An entirely new ed	ja	1958
27	BA90059671	760	1Q84 (ichi-kew-hachi-yon) : a novel / 村上春樹著		ja	2009
28	BN02678497	759	日本子ども資料年鑑 / 日本総合愛育研究所編		ja	1988
29	BA76339838	758	これから論文を書く若者のために / 酒井聰樹著	大改訂 増補版	ja	2006
30	BN08582845	746	新社会学辞典 / 森岡清美, 塩原勉, 本間康平編集代表		ja	1993

31BA33147507	738 岩波=ケンブリッジ世界人名辞典 / ディヴィド・クリスタル編集	ja	1997
32BN00203218	737 仏和大辞典 = Dictionnaire g • n • ral fran都ais-japonais / 伊吹武彦 [ほか] 編	ja	1981
33BN00986308	737 羅和辞典 / 田中秀央編	増訂新版 ja	1966
34BB17342021	736 21世紀の資本 / トマ・ピケティ [著] ; 山形浩生, 守岡桜, 森本正史訳	ja	2014
35BB11506250	735 データ社会を生き抜くための武器と教養 / 西内啓著	ja	2013
36BN04645692	734 岩波情報科学辞典 / 長尾真 [ほか] 編	ja	1990
37BA8185544X	728 生物と無生物のあいだ / 福岡伸一著	ja	2007
38BN1517523X	723 字通 / 白川静著	ja	1996
39BA81721760	716 これからレポート・卒論を書く若者のために / 酒井聰樹著	ja	2007
40BN06880591	716 広辞苑 / 新村出編	第4版 ja	1991
41BA64755653	715 13歳のハローワーク / 村上龍著 ; はまのゆか絵	ja	2003
42BN00640460	715 心理学事典 = Heibonsha's psychological dictionary / 平凡社 [編]	新版 ja	1981
43BB06394555	713 大学生のためのリサーチリテラシー入門 : 研究のための8つの力 / 山田剛史, 林創著	ja	2011
44BN02440644	713 地球環境報告 / 石弘之著	ja	1988
45BN08157624	711 日本の論点 / 文藝春秋編	ja	1992
46BA54921439	710 マネジメント : 基本と原則 / P.F. ドラッカー著 ; 上田惇生編訳	エッセンシャル版 ja	2001
47BN00336663	707 解説教育六法 / 解説教育六法編修委員会編	ja	1970
48BN06504534	707 統計学入門 / 東京大学教養学部統計学教室編	ja	1991
49BA80185953	706 不都合な真実 : 切迫する地球温暖化、そして私たちにできること / アル・ゴア著 ; 枝廣津子訳	ja	2007
50BB1441300X	706 嫌われる勇気 / 岸見一郎, 古賀史健著	ja	2013
51BA48534121	704 銃・病原菌・鉄 : 一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎 / ジャレド・ダイアモンド著 ; 倉骨彰訳	ja	2000
52BA81702165	704 子どもの発達を支える「対人関係・適応」 / 櫻井茂男, 松井豊編	ja	2007
53BN00370129	704 岩波西洋人名辞典 / 岩波書店編集部編集	増補版 ja	1981
54BN11086397	702 教育小六法 / 兼子仁 [ほか] 編	ja	1953
55BA84478636	699 ルボ貧困大国アメリカ / 堤未果著	ja	2008
56BN12608603	696 日本語大辞典 : 講談社カラー版 / 梅棹忠夫 [ほか] 監修	第2版 ja	1995
57BA59462066	693 夜と霧 / ヴィクトール・E・フランクル [著] ; 池田香代子訳	新版 ja	2002
58BB01550970	692 20歳のときに知っておきたかったこと / ティナ・シリグ著 ; 高遠裕子訳	ja	2010
59BN00151566	690 科学革命の構造 / トマス・クーン [著] ; 中山茂訳	ja	1971
60BN02760474	690 小学館ローベル仏和大辞典 / 小学館ローベル仏和大辞典編集委員会編	ja	1988

5. 出版社と図書館の競争と協同から、 プラットフォームを巡る競争へ

- 出版社によるリサーチワークフローへの関心
= 図書館市場の迂回
 - DRM技術を利用したシェアリング環境の提供 (Wiley, NPG等 --- ReadCube)
 - MendeleyやSSRNの買収, BioRNの開始(Elsevier)
 - CHORUS (ClearingHouse for the Open Research of the United States")
 - Atypoon(super-platform)の買収(Wiley)



Posada, Alejandro and Chen, George. "Preliminary findings. Rent seeking by Elsevier" 2017.9 <http://knowledgegap.org/index.php/sub-projects/rent-seeking-and-financialization-of-the-academic-publishing-industry/preliminary-findings/>

29

シームレスなプラットフォームは可能か？ そして、誰が担うのか？

- コンテンツへの繋ぎ目のない集中型アクセス(研究者エクスペリエンス(サービスエクスペリエンス)の向上)は可能か？誰が、どのように、提供するのか？
- 真にシームレスなプラットフォームとは：
 - 出版者を問わず「すべて」が発見でき；そして、
 - 機関契約がある場合はそれを通して(そして、場合によつては別のコンテンツ・セールスを通して)，そのプラットフォームを離れることなく、「すべて」に直接アクセスできる

Schonfeld, Roger C. "The Supercontinent of Scholarly Publishing?" *Scholarly Kitchen*, 2018.5 <https://scholarlykitchen.sspnet.org/2018/05/03/supercontinent-scholarly-publishing/>

30

想定可能なモデル

- 出版社関連モデル
 - Elsevier – Mendeley – Scopus
 - Holtzbrinck – Springer Nature – Digital Science
 - * Dimensions - ReadCube Discover (+ Anywhere Access)
- ※一つの出版社が、すべてのコンテンツのプラットフォームへ転換可能？
※カレントアウェアネスと、両者の研究ワークフロー提供への接続が重要
- 他の記録版(Version of Record)モデル
 - ディスカバリ・サービス(Ebsco, ProQuest, ExLibris Primo...)
- ※他のプラットフォームへのリンクが課題(優位性)
- Clarivate – Web of Science – EndNote – Kopernio
 - *「Clarivateは研究者エコシステムの中で真に中立的な唯一の会社」？
- 必要な部品のうち、現在存在するもの
 - 索引／発見のためだけでなくアクセス提供にも適した形式での「すべてのコンテンツ」のデータベース
 - 主に図書館契約に基づいた利用資格のリスト(明らかに、既存のナレッジベースはこの目的には適していないとされる)。-Kopernio

31

想定可能なモデル

- 破壊的モデル
 - 出版社を中抜きするモデル
 - Chan Zuckerberg Initiative – bioRxiv – Meta
 - ResearchGate
 - Google Scholar with CASA (Campus-Activated Subscriber Access)
 - Elsevier – SSRN – bepress
 - *競合の出版社を回避する有利な状況をもたらす可能性
- その他
 - 既存の出版社プラットフォームとの関係
 - Atypon (Wiley), HighWire, SilverChair
 - ディスカバリ・サービスのビジネスモデルに関連する舞台裏の暗闘
 - 現在は、出版社のコンテンツ搭載の金銭的見返りがない停戦状態
 - しかし、今後については、コンテンツとディスカバリ・サービスの相対的重要性次第で時間の中で変化する可能性
 - SHAREやOCLCは？ NACSISは？

32

知識コモンズの経済学

		減少可能性(競争性)	
		低	高
排除可能性	困難	<u>公共財</u> オープンアクセス・リポジトリ	<u>共有資源</u> 図書館(紙媒体) HathiTrust
	容易	<u>クラブ財</u> EJプラットフォーム	<u>私的財</u> 個人の蔵書(紙媒体) 電子書籍(Amazon Kindle)

Borgman, Christine L. *Big Data, Little Data, No Data: Scholarship in the Networked World*. MIT Press, 2015.1, 383 p.; Hess, C. & Ostrom, E. (Eds.), *Understanding Knowledge as a Commons: From Theory to Practice*. MIT Press, 2007, p. 9.; N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学』第2版①ミクロ編】東洋経済, 2005, p. 301–321.

33

これからの課題

- 大学図書館の業務は、ますます集合的に
 - コレクションの共有、維持・管理
 - そのために必要なマネージメント要素
 - 組織
 - 人材
 - 技術
 - 意思決定
- 国内的、国際的な連携の重要性
 - 例. ジャパン・サーチへの対応

34

第73回東北地区大学図書館協議会総会議事メモ

期日：平成30年9月21日（金）13:00～17:10

会場：東北学院大学土壇キャンパス8号館3階 第3・第4会議室

参加者：加盟38館から62名

議事

1. 開会

- 当番館東北学院大学図書館の佐藤義則館長から開会の挨拶があった。
- 当番館東北学院大学の松本宣郎学長から歓迎の挨拶があった。
- 常任幹事館東北大学附属図書館の大隅典子館長から挨拶があった。

2. 議長の選出

当番館東北学院大学図書情報課の千葉課長から、当番館の佐藤館長を議長として選出することが提案され、承認された。

3. 総会

(1) 報告事項

①平成29年度活動報告について

事務局から、資料1に基づき報告があった。

②平成29年度一般報告について

事務局及び各部会幹事館から、資料2に基づき報告があった。

③研修部会の設置について

事務局から、資料3に基づき、大学教育部会を休止し、研修部会を再開することになった経緯について、報告があった。

(2) 協議事項

①平成29年度決算報告（案）について

②平成29年度記念事業基金決算報告（案）について

③平成29年度監査報告について

事務局から、上記①及び②について、資料4及び5に基づき報告があった。

次いで、監査館の東北医科薬科大学から、資料6に基づき、平成30年9月6日（木）、岩手県立大学及び東北医科薬科大学による監査を実施した結果の報告があり、それぞれ原案のとおり承認された。

④平成30年度事業計画（案）について

事務局から、資料7のとおり提案があり、平成30年度合同研修会については、福島地区が当番地区であることを確認した。

併せて、協議事項⑦研修部会の活動について、事務局及び葛西研修部会主査（青森中央学院大学）から、資料9に基づき活動状況について説明が行われた。

研修部会の活動を含む平成30年度事業計画案について承認された。

⑤平成30年度予算（案）について

⑥平成30年度記念事業基金予算（案）について

事務局から、資料8に基づき提案があり、それぞれ原案のとおり承認された。

⑦研修部会の活動について

協議事項④平成30年度事業計画において承認された。

⑧災害時における各加盟館の被害・復旧状況の情報集約・公表について

提案館の東北大学から、資料10に基づき説明があり、各部会で意見交換を行った後、全体会議で報告、意見交換を行うこととした。

⑨第74回総会の当番地区（館）について

事務局から、資料11に基づき説明があり、次回当番地区が山形地区であることを確認した。会場大学は山形大学とすることが承認された。

⑩その他（総会の承合事項について）

提案館の東北大学から、資料12に基づき説明があり、各部会で意見交換を行った後、全体会議で報告、意見交換を行うこととした。

4. 講演会

東北学院大学図書館長、同大学文学部教授の佐藤義則氏から、「大学図書館コレクションの構図と展望」のご講演をいただいた。

5. 部会

国立、公立、私立大学の各部会に分かれて、会合が行われた。

6. 全体会議

各部会から、意見交換の結果について報告があった。

(1) 国立大学部会（報告館：東北大学）

①災害時における各加盟館の被害・復旧状況の情報

集約・公表について

- ・「東北地区国立大学図書館防災連絡網設置要項」（資料29頁）に基づき、今年度の地区防災連絡館は、国立大学図書館協会東北地区理事館の東北大学と宮城教育大学が担当すること、ただし、両大学は隣接しているため、被害状況によっては、次期理事館である弘前大学が対応することを確認した。
- ・設置要項の内容確認と共に、平常時の人的ネットワーク形成も大事であることを併せて確認した。

②読書バリアフリー法（仮称）への対応について

- ・対象学生が入学した場合は、学内の特別支援担当部署と連携して対応することを想定している大学が多い。
- ・自動読み上げが可能なように、全文テキストを持つ電子データが必要となるが、日本語の教科書、参考書等の電子書籍化が遅れており、国内出版社の反応も鈍いことが課題である。個々の大学でPDF化を行うのも限界がある。

③図書館独自の収入確保（または経費節減）状況について

- ・いくつかの大学で、古本募金の実施例があった。
- ・なかなか大きな収入につながっていないのが現状である。

④図書原簿の取扱いについて

- ・国立大学部会のみの承合事項として提案された。紙の原簿では保管場所の確保が必要で、法人文書の指定となると厳重な保管が求められる。法人文書への指定の状況や紙媒体あるいは電子媒体での保存に関する懸案事項等、各大学の事例を共有した。

⑤その他

- ・毎年秋に開催している国立大学図書館協会東北地区協会事務連絡会議について、今年度の担当が岩手大学であることを確認した。

(2) 公立大学部会（報告館：宮城大学）

①災害時における各加盟館の被害・復旧状況の情報集約・公表について

- ・情報集約し公表することについて各館とも異論はないが、大学の事情によっては、公表しにくい状況が生じることもあり、各大学の自主性に任せることとした。
- ・現在、公立大学部会では国立大学のような防災連絡網の体制ができていないため、今後、連絡等の仕組みについて検討していくたい。
- ・情報集約する場合に、統一した項目、スタイル

になっていることが望ましいため、調査項目等の様式を作成するのがよいとの意見があった。

②読書バリアフリー法（仮称）への対応について

- ・大学全体の取り組みの中で、図書館としても対応していくべき課題であると認識しているが、現在、組織体制が不十分で、研修も行われていない。実際にそのような学生を受け入れる事例も少なく、まだこれからという状況である。
- ・今年度、せんだいメディアテーク（仙台市の公共複合施設）から宮城大学へ着任した特任教員から、この課題に対する仙台市での取り組みについて紹介があった。

③図書館独自の収入確保（または経費節減）状況について

- ・承合事項に回答があった3大学から、以下のとおり説明があった。
 - ・岩手県立大学では、大学祭において1冊100円で古書市を実施している。3~4割程度が売れ、7万円程度の売り上げになるが、売上金は図書館独自の収入にはならないため、図書館としてのモチベーションが上がらない。
 - ・宮城大学では、寄贈されて既に所蔵がある図書について、古書店への売り払いを行っている。図書館独自の財源にはならない。
 - ・国際教養大学では、9月から古本募金を実施している。学生選書ツアーの財源として使用する。

(3) 私立大学部会（報告館：聖和学園短期大学）

①災害時における各加盟館の被害・復旧状況の情報集約・公表について

- ・情報集約・公表について異論はない。可能な限り、情報共有に努めることを確認した。

②読書バリアフリー法（仮称）への対応について

- ・主に視覚に関することが話題になったが、併せて、聴覚や車椅子利用など身体に対する障害への対応事例について、いくつかの大学から報告があった。
- ・図書館に限らず、全学的な取り組みが必要であるとの指摘があった。
- ・視覚障害に対しては、電子書籍の整備や各種資料のテキストデータ化によって、音声読み上げが可能となるとの提案があった。

③図書館独自の収入確保（または経費節減）状況について

- ・古本募金を実施している大学が売り上げをどのように処理しているか、情報共有を行った。

- ・不用図書の処理方法について、情報交換を行った。

以上の報告を踏まえて、種々意見交換を行った後、下記のとおり確認を行った。

①災害時における各加盟館の被害・復旧状況の情

報集約・公表について

情報集約・公表することについて、各大学部会での異論はなかった。

ただし、各大学の事情もあるので、情報提供については可能な限り協力することが確認された。

②読書バリアフリー法（仮称）への対応について

特に電子化の遅れが大きな問題であり、著作権法第37条第3項で視覚障害者等のために図書館が電子化することができるようになっているが、まだ実践例が少なく、今後も情報を共有していくこととした。

③図書館独自の収入確保（または経費節減）状況

について

古本募金等の事例について情報交換できたが、得られる収入が少額であることや、図書館財源にならないという課題があること、今後も各大学の事例やアイディアについて情報を共有していくことを確認した。

7. 閉会式

次期当番館である山形大学小白川図書館の長山俊樹館長から挨拶があった。

第73回東北地区大学図書館協議会総会出席者名簿

	館 名	職 名	氏 名
国 立 大 学	弘前大学附属図書館	図書館長	郡 千寿子
		事務長	工藤 弘文
	岩手大学図書館	館長	喜多 一美
		学術情報課長	切金 敦
	東北大学附属図書館	附属図書館長	大隅 典子
		事務部長	加藤 晃一
		総務課長	小陳 左和子
		総務課	田口 瞳夫
	宮城教育大学附属図書館	附属図書館長	中地 文
		学術情報課長	川村 真
	秋田大学附属図書館	附属図書館長	今野 和彦
		図書館・情報推進課長	猿田 悅弘
	山形大学附属図書館	小白川図書館長	長山 俊樹
		教育・学生支援部 学務課長	布施 一明
		小白川キャンパス事務部 教務課図書担当係長	會田 忠弘
	福島大学附属図書館	図書館長	塘 忠顕
		学術情報課長	佐藤 和弘
公 立 大 学	岩手県立大学メディアセンター	図書事務員	木村 祐子
	宮城大学学術情報センター	学術情報センター長	茅原 拓朗
		特任准教授	小川 直人
		事務局学務課学術情報室 学術情報グループ 主任主査	安藤 美保
	秋田県立大学 図書・情報センター	学生チームリーダー	佐々木 豊
	秋田公立美術大学附属図書館	主任(司書)	池田 知剛
	国際教養大学中嶋記念図書館	図書館長	加藤 信哉
	山形県立保健医療大学附属図書館	図書・調整主査	鹿間 麻里江
	山形県公立大学法人附属図書館	図書館長	高橋 永行
	会津大学短期大学部附属図書館	図書館長	左 一八
	福島県立医科大学附属学術 情報センター	学術情報副室長	菅野 達也
		専門司書	古川 聖子

	館 名	職 名	氏 名
私立大学	八戸工業大学図書館	主事	笹山 由紀子
	青森中央学院大学・青森中央短期大学 図書館情報センター	リーダー	葛西 崇文
	岩手医科大学附属図書館	事務室長	芳賀 真理子
	富士大学図書館	上席調査役	吉田 葉子
	盛岡大学図書館	事務室長	藤澤 弘樹
	修紅短期大学図書館	図書館長	千葉 正
	仙台白百合女子大学図書館	館長	大本 泉
		主任	谷藤 大介
	石巻専修大学図書館	図書館長	西方 守
		事務課長	尾崎 由明
	東北学院大学図書館	館長	佐藤 義則
		分館長	小林 瞳
		分館長	足利 正
		課長	千葉 裕
		課長補佐	嶋 容三
		課長補佐	齋藤 由紀子
	東北工業大学附属図書館	館長	丸尾 容子
	東北福祉大学図書館	図書館長	星山 幸男
		課長補佐	重松 積男
		主任	熊谷 幸
	東北文化学園大学総合情報センター 図書館	総合情報センター長	藤木 澄義
		図書館事務室課長	佐々木 正文
	東北医科薬科大学附属図書館	係長	島田 あすか
	宮城学院女子大学図書館	学術情報部長	今林 直樹
	聖和学園短期大学図書館	図書館長	川辺 博
		職員	貝 柚季奈
	東北生活文化大学附属図書館	司書	村山 智美
	東北芸術工科大学図書館	教学課長	滝口 慶太
	羽陽学園短期大学附属図書館	館長	柏倉 弘和
	東北文教大学附属図書館	館長	熊谷 義隆
	郡山女子大学図書館	司書係長	和知 剛
	東日本国際大学・いわき短期大学 昌平図書館	館長	倉田 貢
	日本大学図書館工学部分館	図書館事務課長	小野 信太郎

図書館統計年報

(1) 建物・蔵書状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

図書館名	建物 延面積	蔵書冊数			平成 29 年度増加冊数		
		和書	洋書	計	和書	洋書	計
弘前大学	m ²	冊	冊	冊	冊	冊	冊
" 医学部分館	6,111	507,519	164,837	672,356	7,384	740	8,124
岩手大学	1,569	81,803	67,750	149,553	785	276	1,061
岩手北医学	9,088	688,309	203,212	891,521	5,760	646	6,406
" 医学分館	18,215	1,637,192	1,174,670	2,811,862	19,392	5,363	24,755
" 北青葉山分館	4,476	172,654	244,771	417,425	2,613	668	3,281
" 工学分館	3,356	92,255	306,209	398,464	1,839	-287	1,552
" 農学分館	5,365	181,083	183,361	364,444	2,317	590	2,907
宮城教育大学	5,732	88,763	61,585	150,348	1,753	3,203	4,956
秋田大学	2,857	323,855	50,903	374,758	3,508	432	3,940
" 医学図書館	4,604	315,619	112,743	428,362	3,799	-1,384	2,415
山形大学小白川図書館	7,626	533,847	187,341	721,188	2,791	443	3,234
" 医学部図書館	1,195	37,326	55,921	93,247	391	51	442
" 工学部図書館	3,259	117,353	58,134	175,487	364	43	407
" 農学部図書館	969	84,012	17,298	101,310	706	79	785
福島大学	10,084	693,267	235,135	928,402	6,222	807	7,029
青森公立大学	3,337	145,776	46,408	192,184	2,910	112	3,022
青森県立保健大学	1,850	104,280	27,865	132,145	3,360	72	3,432
岩手県立大学	6,425	256,256	59,320	315,576	4,560	240	4,800
宮城大学大和キャンパス	2,192	109,124	16,894	126,018	2,073	142	2,215
宮城大学太白キャンパス	943	62,027	7,136	69,163	577	18	595
秋田県立大学	4,900	223,116	54,078	277,194	7,162	2,229	9,391
秋田公立美術大学	1,194	44,505	8,987	53,492	1,795	82	1,877
国際教養大学	1,831	29,551	52,069	81,620	1,043	541	1,584
山形県立保健医療大学	890	62,369	6,848	69,217	1,301	15	1,316
山形県公立大学	984	110,665	9,476	120,141	478	12	490
会津大学	2,446	60,207	69,046	129,253	-74	-239	-313
" 短期大学部	443	73,188	8,812	82,000	1,235	9	1,244
福島県立医科大学	3,400	133,094	94,833	227,927	2,228	281	2,509
東北女子大学	599	40,395	4,851	45,246	886	29	915
八戸学院	1,636	156,718	14,054	170,772	1,970	8	1,978
八戸工業大学	2,126	102,217	26,792	129,009	601	9	610
弘前学院大学	1,280	88,863	19,405	108,268	926	113	1,039
青森中央学院大学・同短期大学	2,137	88,642	5,320	93,962	1,769	3	1,772
岩手医科大学	5,054	153,935	136,003	289,938	2,050	282	2,332
" 岩手看護短期大学	183	20,759	2,264	23,023	291	1	292
富士大	1,225	171,487	30,959	202,446	1,691	107	1,798
盛岡大学	2,081	258,946	22,085	181,031	2,833	45	2,878
修紅短期大学	205	14,735	229	14,964	360	0	360
仙台大	1,120	116,360	17,801	134,161	3,557	81	3,638
仙台百合女子大学	1,442	87,864	10,373	98,237	603	5	608
石巻専修大学	3,496	118,577	62,807	181,384	1,196	345	1,541
東北学院大学・同中央	7,602	468,737	292,517	761,254	4,293	1,344	5,637
" 泉キャンパス	6,100	223,072	105,733	328,805	5,740	1,657	7,397
" 多賀城キャンパス	2,899	91,547	43,188	134,735	1,609	128	1,737
東北工業大学	2,977	178,858	50,476	229,334	2,381	96	2,477
東北福祉大学	4,205	322,717	62,633	385,350	8,978	899	9,877
東北文化学園大学	1,744	114,548	15,895	130,443	2,692	17	2,709
東北医科大学	2,036	72,660	47,779	120,439	5,176	2,000	7,176
宮城学院女子大学	3,216	301,926	106,087	408,013	2,095	681	2,776
尚絅学院大学	2,337	135,302	25,137	160,439	3,811	1,087	4,898
聖和学院短期大学	428	57,916	1,280	59,196	1,055	0	1,055
仙台青葉学院短期大学	356	27,298	1,706	29,004	2,608	16	2,624
東北生活文化大学・同短期大学部	672	66,082	5,495	71,577	242	22	264
ノースアジア大学	1,689	178,455	20,346	198,801	934	38	972
東北芸術工科大学	1,795	136,008	16,017	152,025	812	70	882
羽陽学園短期大学	705	61,547	2,438	63,985	1,118	7	1,125
東北文教大学・同短期大学部	1,533	115,811	8,438	124,249	877	6	883
東北公益文科大学	1,517	102,141	11,477	113,618	1,139	34	1,173
医療創生大学	4,916	225,531	59,748	285,279	4,210	217	4,427
奥羽大	2,062	149,039	94,634	243,673	424	7	431
郡山女子大学	1,651	103,531	14,386	117,917	886	4	890
東日本国際大学	1,221	73,412	10,681	84,093	1,585	139	1,724
日本大学工学部分館	5,006	218,976	120,085	339,061	1,027	327	1,354
桜の聖母短期大学	642	52,671	9,576	62,247	805	51	856
福島学院大学	2,061	80,400	5,789	86,189	1,032	118	1,150

(2) 利用状況

(平成 29 年度分)

図書館名	対象学生数	図書館利用状況				文献複写		
		学生：館外貸出		対象職員数	教職員：館外貸出		学内分	学外分
		人員	冊数		人員	冊数		
弘前大学	6,849	人	人	冊	人	冊	件	件
弘前大学医学部分館	-	20,814	35,038	3,215	1,815	3,685	225	1,082
岩手大学	5,588	6,156	10,376	-	710	1,273	79	2,031
岩手大学医学部	18,444	14,371	28,392	753	1,631	3,421	1,129	986
岩手大学医学部医学会	3,695	95,564	201,184	10,102	8,647	21,874	4,455	3,184
岩手大学医学部北青葉山分館	2,999	15,247	24,056	7,145	2,879	5,383	5,250	8,123
岩手大学医学部工学分館	6,701	15,229	22,658	856	1,134	1,784	129	806
岩手大学医学部農学分館	1,044	26,728	45,330	2,482	1,978	4,309	87	1,422
宮城教育大学	1,636	9,593	19,639	494	1,133	3,202	373	289
秋田大学	5,155	18,991	37,035	2,702	1,187	2,993	768	315
秋田大学医学部	1,432	6,091	10,184	1,643	483	1,069	1,074	1,859
山形大学小白川図書館	4,469	15,085	28,360	822	1,680	3,332	296	633
山形大学医学部図書館	1,051	3,084	4,607	1,859	595	1,083	63	2,434
山形大学工学部図書館	3,559	7,757	14,909	487	381	836	44	148
山形大学農学部図書館	586	1,558	2,907	180	164	298	5	121
福島島大	4,432	20,188	39,148	582	2,355	5,572	3,501	738
福島島公立大学	1,295	3,758	7,432	122	340	959	74	24
福島島公立保健大学	982	9,297	25,592	405	1,044	3,463	2,197	1,009
福島島公立大学	2,540	10,071	20,163	524	1,366	3,319	709	115
宮城大学大和キャンパス	1,332	-	10,848	292	-	2,059	948	948
宮城大学太白キャンパス	550	-	3,523	82	-	1,207	141	135
秋田県立大学	1,826	-	38,862	453	-	4,229	517	379
秋田公立美術大学	459	1,913	3,899	142	280	664	85	29
国際教養大学	1,088	-	6,736	190	-	898	59	23
山形県立保健医療大学	451	4,203	2,234	81	403	495	105	240
山形県公立大学	749	4,626	9,662	147	354	744	222	111
会津大	1,243	6,091	13,105	205	567	1,132	12	104
会津短期大学部	315	1,887	4,159	181	655	1,863	-	-
福島県立医科大学	1,402	6,535	12,510	3,396	1,562	4,126	-	2,207
東北女子大学	350	1,224	2,189	110	346	826	2,780	79
八戸工業大学	1,231	3,265	6,641	222	767	2,067	188	128
八戸工業学院	1,159	524	906	203	107	251	0	89
弘前学院	708	1,367	2,492	185	146	422	1,150	180
青森中央学院大学・同短期大学	1,419	649	5,834	321	62	757	-	291
岩手医科大学	2,348	2,380	4,277	3,643	1,601	4,428	796	1,083
岩手看護短期大学	175	613	1,269	24	73	124	0	0
富士大	672	822	1,558	159	295	627	180	254
盛岡大	2,043	4,955	11,063	280	539	1,770	1,110	155
修紅短期大学	159	424	974	55	88	268	1	0
仙台百合女子大学	2,578	1,222	2,174	184	146	310	-	1
仙台百合女子大学	975	1,419	2,860	93	141	308	52	54
石巻専修大学	1,195	-	2,606	242	-	1,034	161	191
東北学院大学	11,412	7,167	13,364	1,386	1,454	3,648	4,077	583
東北学院大学	11,412	14,111	24,358	1,386	1,378	3,535	2,655	287
東北学院大学	11,412	3,444	6,444	1,386	295	1,145	299	291
東北工業大学	3,231	2,928	5,675	216	608	1,450	149	4
東北福祉大学	5,819	13,380	24,632	848	1,786	4,717	636	458
東北文化学園大学	2,200	6,338	11,642	630	886	2,152	465	196
東北医科大学	2,327	2,645	4,694	533	265	572	1,815	71
東宮城学院大学	3,042	13,550	28,065	570	1,352	3,916	1,346	853
尚絅大学	1,988	8,074	19,257	256	824	4,809	1,371	153
聖和学園短期大学	547	1,567	2,743	161	241	501	132	1
仙台青葉学院大学	1,574	8,814	15,423	87	486	724	861	97
東北生活文化大学・同短期大学部	464	811	1,755	131	314	791	48	16
ノースアジア大学	896	663	1,180	123	214	686	119	6
東北芸術工科大学	2,386	9,041	21,848	385	623	1,860	1,316	46
羽陽学園短期大学	235	1,652	5,005	61	98	397	-	21
東北文教大学・同短期大学部	721	2,435	4,415	112	337	1,002	246	18
東北公益文科大学	829	3,906	7,759	169	699	1,900	168	113
医療創生大学	988	2,822	5,614	204	696	1,840	522	84
奥羽羽大	1,006	2,662	3,832	438	656	1,078	2,371	80
郡山女子大学	869	6,095	1,823	137	936	670	140	164
東日本国際大学	734	946	1,802	179	346	1,004	81	24
日本大学工学部分館	4,848	5,190	10,516	393	427	5,947	603	405
桜の聖母短期大学	345	1,538	3,428	80	351	797	-	55
福島学院大学	801	1,578	2,516	186	280	573	0	71

(3) 雑誌・新聞所蔵及び受付種類数

(平成 29 年度分)

図書館名	雑誌・新聞所蔵			受付種類数		
	和	洋	計	和	洋	計
弘前大学	種 14,347	種 3,848	種 18,195	種 1,543	種 60	種 1,603
" 医学部分館	4,149	2,462	6,611	527	158	685
岩手大学	9,244	2,177	11,421	6,479	272	6,751
東北大学	26,679	17,442	44,121	3,776	2,050	5,826
" 医学分館	5,421	9,417	14,838	828	970	1,798
" 北青葉山分館	2,371	8,882	11,253	379	981	1,360
" 工学分館	3,743	4,384	8,127	769	598	1,367
" 農学分館	4,363	2,299	6,662	781	229	1,010
宮城教育大学	2,587	648	3,235	337	42	379
秋田大学	6,625	2,640	9,265	636	62	698
" 医学図書館	1,717	1,672	3,389	447	64	511
山形大学小白川図書館	10,027	3,188	13,215	1,017	135	1,152
" 医学部図書館	3,097	1,870	4,967	340	39	379
" 工学部図書館	2,060	1,381	3,441	224	20	244
" 農学部図書館	2,629	624	3,253	248	14	262
福島県立大	10,914	2,765	13,679	2,441	166	2,607
青森公立大	408	718	1,126	196	112	308
青森県立保健大	937	241	1,178	502	23	525
岩手県立大	722	459	1,181	355	266	621
宮城大学大和キャンパス	1,951	455	2,406	528	51	579
宮城大学太白キャンパス	2,256	258	2,514	277	37	314
秋田県立大	2,707	1,069	3,776	777	184	961
秋田公立美術大	191	62	253	86	21	107
国際教養大	108	130	238	66	45	111
山形県立保健医療大	1,074	224	1,298	211	17	228
山形県公立大	208	41	249	122	33	155
会津大	625	833	1,458	225	17	242
" 短期大学部	111	88	199	109	17	126
福島県立医科大学	8	1	9	722	102	824
東北女子大	109	45	154	74	17	91
八戸工業大	198	19	217	198	19	217
弘前学院大	857	611	1,468	82	3	85
青森中央学院大学・同短期大学	718	43	761	98	17	115
岩手医科大学	5,826	2,581	8,407	1,260	74	1,334
" 岩手看護短期大学	391	43	434	56	0	56
富士大	2,816	225	3,041	879	41	920
盛岡大	2,813	258	3,071	589	45	634
修紅短期大	-	-	-	43	0	43
仙台大	1,305	160	1,465	155	39	194
仙台百合女子大	322	94	416	191	30	221
石巻専修大	1,314	819	2,133	407	57	464
東北学院大学中央	7,685	2,441	10,126	2,453	312	2,765
" 泉キャンパス	2,798	1,161	3,959	824	225	1,049
" 多賀城キャンパス	1,844	1,402	3,246	550	161	711
東北工業大	1,646	902	2,548	326	235	561
東北福祉大	4,023	766	4,789	2,153	141	2,294
東北文化学園大	1,098	135	1,233	282	23	305
東北医科薬科大	557	485	1,042	171	23	194
宮城学院女子大	10,219	921	11,140	1,055	129	1,184
尚絅学院大	933	182	1,115	267	50	317
聖和学園短期大	139	1	140	310	0	310
仙台青葉学院短期大学	299	25	324	128	16	144
東北生活文化大学・同短期大学	213	53	266	77	10	87
ノースアジア大	2,403	306	2,709	921	46	967
東北芸術工科大	367	130	497	367	130	497
羽陽学園短期大	120	14	134	75	2	77
東北文教大学・同短期大学	220	47	267	155	12	167
東北公益文科大	232	72	304	156	17	173
医療創生大	904	496	1,400	113	24	137
奥羽大	1,154	1,253	2,407	270	27	297
山女子大	906	91	997	146	6	152
日本国際大	244	94	338	80	8	88
日本大学工学部分館	1,611	1,369	2,980	171	118	289
桜の聖母短期大学	108	32	140	62	12	74
福島学院大	51	10	61	51	10	61

協議会総会当番地区・当番大学

回	年	当番地区	当 番 大 学	回	年	当番地区	当 番 大 学
1	昭和 22	宮 城	東 北 大 学	44	平成 元	山 形	学 学 学 学 学 学 学
2	23	"	東 仙 台 工 業 専 門 学 校	45	2	青 森	学 学 学 学 学 学 学
3	24	"	東 北 学 院 大 学	46	3	城 手 島	学 学 学 学 学 学 学
4	24	"	東 北 大 学	47	4	島 福 宮	学 学 学 学 学 学 学
5	25	岩 山	手 形 大 学	48	5	福 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
6	26	青 森	森 島 大 学	49	6	秋 田	学 学 学 学 学 学 学
7	27	福 祐	福 島 大 学	50	7	北 田	学 学 学 学 学 学 学
8	28	秋 宮	前 島 大 学	51	8	山 宮	学 学 学 学 学 学 学
9	29	宮 城	田 城 大 学	52	9	東 青 岩	学 学 学 学 学 学 学
10	30	岩 岩	手 医 大 学	53	10	森 手 島	学 学 学 学 学 学 学
11	31	手 山	医 科 大 学	54	11	手 島 福	学 学 学 学 学 学 学
12	32	形 秋	大 学	55	12	福 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
13	33	福 宮	大 学	56	13	秋 田	学 学 学 学 学 学 学
14	34	秋 宮	前 島 大 学	57	14	青 岩	学 学 学 学 学 学 学
15	35	福 宮	立 医 科 大 学	58	15	東 仙 国	学 学 学 学 学 学 学
16	36	福 宮	北 手 島 大 学	59	16	八 岩 宮	学 学 学 学 学 学 学
17	37	福 宮	手 島 大 学	60	17	青 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
18	38	福 宮	形 田 大 学	61	18	福 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
19	39	福 宮	前 田 大 学	62	19	青 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
20	40	福 宮	田 形 大 学	63	20	福 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
21	41	福 宮	城 田 大 学	64	21	青 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
22	42	福 宮	城 田 大 学	65	22	福 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
23	43	福 宮	前 州 大 学	66	23	青 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
24	44	福 宮	北 県 大 学	67	24	福 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
25	45	福 宮	工 業 大 学	68	25	青 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
26	46	福 宮	立 医 科 大 学	69	26	福 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
27	47	福 宮	経 済 大 学	70	27	福 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
28	48	福 宮	教 育 大 学	71	28	福 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
29	49	福 宮	山 形 大 学	72	29	福 宮 岩	学 学 学 学 学 学 学
30	50	福 宮	前 北 大 学	73	30	令 和	学 学 学 学 学 学 学
31	51	福 宮	手 島 大 学	74	元	山 青 宮	(山 形 大 学)
32	52	福 宮	手 島 大 学	75	2	城 手 島	
33	53	福 宮	手 島 大 学	76	3	手 島 城	
34	54	福 宮	手 島 大 学	77	4	形 田 城	
35	55	福 宮	手 島 大 学	78	5	森 城 手 島	
36	56	福 宮	手 島 大 学	79	6	手 島 城	
37	57	福 宮	手 島 大 学	80	7	手 島 城	
38	58	福 宮	手 島 大 学	81	8	手 島 城	
39	59	福 宮	手 島 大 学				
40	60	福 宮	手 島 大 学				
41	61	福 宮	手 島 大 学				
42	62	福 宮	手 島 大 学				
43	63	福 宮	手 島 大 学				

※ 第 72 回総会において、81 回までの当番地区が確認された。

東北地区大学図書館協議会役員館一覧【第46回（平成3）～第72回（平成31）】

常任幹事館 （国立）	幹事館 （公立）			会計監査館 （私立）			審査委員館 （国立）			審査委員館 （公立）			審査委員館 （私立）		
	（国立）	（公立）	（私立）	（公立）	（私立）	（公立）	（国立）	（公立）	（私立）	（国立）	（公立）	（私立）	（国立）	（公立）	（私立）
第46回総会 (H3. 9～H5. 8)	東北大学	東北大学 岩手大学	福島県立会津短期大学	宮城学院女子大学 石巻専修大学	宮城県農業短期大学	東北福祉大学	東北大学 岩手大学	福島県立医科大学	福島県立米沢女子短期大学	東北工業大学	日本大学工学部	東北工業大学	福島県立医科大学	日本大学工学部	東北工業大学
第48回総会 (H5. 9～H7. 8)	東北大学	東北大学 宮城教育大学	会津大学短期大学部	東北福祉大学 いわき明星大学	宮城県農業短期大学	東北学院大学	東北大学 岩手大学	福島県立医科大学	福島県立農業短期大学	東北大学	秋田県立医科大学	秋田県立医科大学	福島県立医科大学	秋田経済短期大学	八戸工業大学
第50回総会 (H7. 9～H9. 8)	東北大学	東北大学 秋田大学	会津大学	東北薬科大学 富士大学	宮城県農業短期大学	宮学院女子大学	宮学院女子大学	秋田県立医科大学	福島県立医科大学	東北大学	仙台大学 郡山女子大学	仙台大学 郡山女子大学	福島県立医科大学	仙台大学 郡山女子大学	仙台大学 郡山女子大学
第52回総会 (H9. 9～H11. 8)	東北大学	東北大学 福島大学	会津大学	八戸工業大学 東北工業大学	宮城県農業短期大学	宮学院女子大学	宮学院女子大学	秋田県立宮古短期大学	福島県立医科大学	東北大学	福島大学 仙台大学 郡山女子大学	仙台大学 郡山女子大学	福島県立医科大学	仙台大学 郡山女子大学	仙台大学 盛岡大学
第54回総会 (H11. 9～H13. 8)	東北大学	東北大学 山形大学	福島県立医科大学	秋田経済法科大学 東北文化学園大学	宮城県立米沢女子短期大学	宮学院女子大学	宮学院女子大学	秋田県立美術工芸短期大学	秋田県立医科大学	東北大学	山形大学 弘前大学	東北大学	秋田公立美術工芸短期大学	仙台大学 盛岡大学	八戸大学
第56回総会 (H13. 9～H15. 8)	東北大学	東北大学 弘前大学	山形県立保健医療大学	仙台百合女子大学 秋田経済法科大学	秋田県立大学	東北福祉大学	東北大学 弘前大学	宮城県農業短期大学	宮城県立医科大学	東北大学	山形大学 弘前大学	東北大学	宮城県立保健医療大学	東北工業大学	東北工業大学
第58回総会 (H15. 9～H17. 8)	東北大学	東北大学 岩手大学	秋田県立大学	宮学院女子大学 いわき明星大学	宮城県立保健医療大学	仙台百合女子大学	仙台百合女子大学	青森県立保健大学	青森県立保健大学	東北大学	岩手大学 仙台大学 郡山女子大学	東北大学	岩手県立保健大学	宮城学院女子大学 いわき明星大学	仙台大学 郡山女子大学
第60回総会 (H17. 9～H19. 8)	東北大学	東北大学 宮城教育大学	官城大学	東北学院大学 岩手医科大学	東北福祉大学 郡山女子大学	岩手県立大学	東北大学 秋田大学	青森県立保健大学	青森県立保健大学	東北大学	宮城教育大学 仙台大学 郡山女子大学	東北大学	青森県立保健大学	仙台大学 郡山女子大学	八戸大学
第62回総会 (H19. 9～H21. 8)	東北大学	東北大学 秋田大学	岩手県立大学	東北福祉大学 郡山女子大学	東北大学 仙台大学	青森県立保健大学	東北学院大学	福島県立医科大学	福島県立医科大学	東北大学	秋田大学 仙台大学	東北大学	青森県立保健大学	仙台大学 郡山女子大学	八戸大学
第64回総会 (H21. 9～H23. 8)	東北大学	東北大学 山形大学	青森県立保健大学	福島県立医科大学	東北薬科大学 東北文教大学・東北文教大学短期大学部	盛岡大学 仙台大学	石巻専修大学	福島県立医科大学	福島県立医科大学	東北大学	福島大学 仙台大学	東北大学	青森県立保健大学	盛岡大学 仙台大学	八戸大学
第66回総会 (H23. 9～H25. 8)	東北大学	東北大学 山形大学	福島県立保健大学	東北薬科大学 東北文教大学	東北文教大学・東北文教大学短期大学部	山形県立保健医療大学	岩手医科大学	岩手医科大学	福島県立医科大学	東北大学	山形大学 弘前大学	東北大学	福島県立医科大学	東北薬科大学 東北文教大学短期大学部	東北学院大学
第68回総会 (H25. 9～H27. 8)	東北大学	東北大学 弘前大学	山形県立米沢女子短期大学	東北学院大学 八戸学院大学	東北学院大学	秋田公立美術大学	東北大学 弘前大学	秋田公立美術大学	秋田公立美術大学	東北大学	山形県立米沢女子短期大学	東北大学	山形県立米沢女子短期大学	東北学院大学	八戸学院大学
第70回総会 (H27. 9～H29. 8)	東北大学	東北大学 宮城教育大学	秋田公立美術大学	青森中央学院大学	東北学院大学	宮城大学	東北大学 岩手大学	東北学院大学	東北学院大学	東北大学	秋田公立美術大学	東北大学	秋田公立美術大学	東北学院大学	青森中央学院大学
第72回総会 (H29. 9～R1. 8)	東北大学	東北大学 宮城教育大学	官城大学	修紅短期大学 聖和学園短期大学	岩手県立大学	東北医科薬科大学	東北大学 官城教育大学	東北医科薬科大学	東北医科薬科大学	東北大学	官城大学	東北大学	修紅短期大学 聖和学園短期大学	東北学院大学	青森中央学院大学

東北地区大学図書館協議会会則

昭和22年5月30日制定

昭和24年12月2日制定（全改）

改正：昭和28年11月13日（第1条（名称）改正）、昭和29年6月11日（第7条（会費）、第8条（票決権）改正）、昭和31年10月5日（第6条（監査館）追加）、昭和33年10月7日（第5条（顧問）追加）、昭和34年8月4日（第9条（会費）改正）、昭和39年7月9日（第9条（会費）改正・同第2項（会計年度）制定）、昭和43年5月10日（第9条（会費）改正）、昭和46年5月13日（第9条（会費）改正）、昭和50年5月16日（第2条（加盟組織の追加）改正）、昭和53年10月19日（第9条（会費・会計年度）改正）、昭和56年10月22日（第6条（幹事館を追加）改正）、昭和61年9月25日（第9条（会費）改正）、平成3年9月26日（第9条（会費）改正）、平成6年9月21日（第9条（会費）改正）

第1条 本会は東北地区大学図書館協議会と称する。

第2条 本会は東北地区における大学および国立工業高等専門学校に附属する図書館をもって組織し、図書館の施設、運営、管理などの進歩改善について、相互に連携協力することを目的とする。

第3条 本会は毎年1回、加盟館輪番により総会を開催する。但し必要に応じ、加盟館過半数の賛成を得て、臨時総会を開くことができる。

第4条 本会の目的を達成するため、隨時図書館に関する講習会の開催、その他必要と認める事業を行うものとする。

第5条 本会に顧問を置くことができる。

顧問はかつて加盟館に在籍し、本会において特に顕著なる功績のあった者の中から、総会においてこれを推薦する。

顧問は総会に出席し、また隨時意見を述べることができる。

第6条 本会に常任幹事館、及び幹事館若干を置く。

1. 常任幹事館、幹事館は幹事会を組織し、協議会の運営にあたる。
2. 幹事会は毎年少なくとも1回招集するものとする。
3. 常任幹事館は協議会の会務を処理し、幹事会を招集する。
4. 常任幹事館、幹事館は総会において互選によってこれを定め、その任期を2ヶ年とする。但し、重任することができる。

第7条 本会の会計事務を監査するため若干の監査館を置く。監査館は総会において互選によってこれを定め、その任期を2ヶ年とする。但し、重任することができる。

第8条 本会の事務所は、常任幹事館内に置く。

第9条 本会の経費は、会費その他の収入をもってあてる。会費は年額15,000円とする。

2 本会の会計年度は毎年9月1日にはじまり、翌年8月31日に終わる。

第10条 総会の票決権は1館につき1票とし、議決は出席館過半数の賛成を要する。

第11条 本会則は総会の議決によらなければこれを変更することができない。

附 則

本会則は昭和24年12月2日から施行する。

（略）

附 則（昭和53年10月19日第33回総会）

この改正による会則は、昭和53年10月19日から施行し、昭和54年9月1日から適用する。

附 則（昭和56年10月22日第36回総会）

この改正による会則は、昭和56年10月24日から施行し、昭和56年10月24日から適用する。

附 則（昭和61年9月25日第41回総会）

この改正による会則は昭和61年9月27日から施行する。

附 則（平成3年9月26日第46回総会）

この改正による会則は平成3年9月26日から施行する。

附則（平成6年9月21日第49回総会）
この会則は、平成6年9月21日から施行する。

○第38回東北地区大学図書館協議会総会議事録（抄）

昭和58年9月29日～30日（会場：弘前大学）

全体会議（第1日）

6. 役員の改選について

常任幹事館から、役員の任期（2年）が今年度で満了となるため、次期役員館選出について提案がなされた。これは、幹事館が国立2館、公立1館、私立2館の計5館で、うち1館が常任幹事館となる。会計監査館は公立1館、私立1館で、学術奨励論文審査委員館は、国・公・私立各2館の計6館となる。以上について各部会で検討し、選任の上全体会議で取りまとめることにした。又、会計監査館については、常任幹事館を決め、それに近い大学を推薦願いたいとの提案があり承認された。

東北地区大学図書館協議会表彰規程

平成19年9月20日制定

（趣旨）

第1条 この規程は、東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）会則第4条に基づく事業として加盟館の職員を表彰するため、必要な事項を定めるものとする。

（表彰の区分）

第2条 表彰は、次の各号の一に該当する者について行う。

- (1) 図書館活動又は図書館情報学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者
- (2) 協議会の運営、発展のために功績顕著であった者

（応募の方法）

第3条 表彰を受けようとする者は、所属する加盟館の長に応募の申請を行う。加盟館の長は、応募の申請に基づき常任幹事館へ推薦を行う。

（審査委員会）

第4条 前条の推薦があった時は、審査委員会が審査を行う。

- 2 審査委員会は、常任幹事館及び加盟館の互選による審査委員館若干をもって組織する。
- 3 審査委員会に主査館を置き、常任幹事館をもって充てる。
- 4 審査委員会は、必要に応じ学識経験者の意見を参考とすることができます。

（表彰者の決定）

第5条 幹事会は、審査委員会の審査に基づき、表彰者を決定する。

（表彰状の授与等）

第6条 表彰に際しては、別紙様式による表彰状に併せて記念品を贈呈することができる。

- 2 表彰は、協議会の総会において行う。

（取扱要項への委任）

第7条 この規程に定めるものほか、表彰について必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成19年9月20日から施行する。
- 2 東北地区大学図書館協議会学術奨励規程（昭和40年6月2日制定）は、廃止する。
- 3 東北地区大学図書館協議会表彰規程（昭和38年6月30日制定）は、廃止する。

東北地区大学図書館協議会表彰規程取扱要項

平成19年9月20日制定

第1 この取扱要項は、東北地区大学図書館協議会表彰規程（以下「規程」という。）第7条の規定に基づき表彰について必要な事項を定めるものである。

第2 規程第2条第1号の「図書館活動又は図書館情報学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者」とは次に掲げる者をいう。

- (1) 図書館活動における業績 業務処理の改善や業務遂行上の成果等で、東北地区大学図書館協議会加盟館の活動において先導的な意義を有するもの。
- (2) 図書館情報学の研究、調査等の業績 図書館情報学に関する著作で、東北地区大学図書館協議会加盟館の活動に対して啓発性を有するもの。
- (3) 前2号の業績は、個人以外にグループも対象とする。

第3 規程第2条第2号の「協議会の運営、発展のために功績顕著であった者」とは、加盟館に5年以上勤務した者のうち、規定文言の主旨に合致するものを対象とする。

第4 規程第3条の推薦の期日は、毎年5月末日までとする。

2 推薦は、別紙文書により行う。

3 応募については、自薦、他薦を問わないものとする。

第5 主査館は、推薦調書（各写）を審査委員館に送付し、審査を依頼するものとする。

第6 審査は、会議又はその他の方法による。

第7 推荐調書を提出した審査委員館は、審査には加わらない。

第8 常任幹事館から推薦調書の提出があった場合は、常任幹事館を除く審査委員館の互選によって主査館を決定する。

第9 審査委員館は、当分の間、会則第6条に規定する幹事館をもって充てる。

第10 審査委員館は、審査結果を文書にて、その年の7月末日までに常任幹事館に報告する。

第11 常任幹事館は、審査委員会の結果を総会に報告するものとする。

第12 受賞者等については、その受賞事由、業績等の概要等を協議会誌に公表するものとする。

附 則

1 この取扱要項は、平成19年9月20日から施行する。

2 学術奨励賞候補論文等審査取扱要項（平成2年9月20日制定）は、廃止する。

表彰状様式1（第2条第1号該当者）

表 彰 状 殿

あなたは図書館学の研究調査に精励されその向上発展に貢献されたことはまことに顕著なものがあります
よってここにそのすぐれた功績を讃え記念品を贈り表彰いたします

平成 年 月 日

東北地区大学図書館協議会

表彰状様式2（第2条第2号該当者）

表 彰 状 殿

あなたは本協議会の運営に尽力されるとともに大学図書館の発展に多大な貢献をされました
よってここにそのすぐれた功績を讃え記念品を贈り表彰いたします

平成 年 月 日

東北地区大学図書館協議会

(別紙)

文書番号

平成 年 月 日

東北地区大学図書館協議会常任幹事館

○ ○ 大学附属図書館長 殿

○ ○ 大学(附属)図書館長

○ ○ ○ ○ 公印

表彰者の推薦について

下記の者を、東北地区大学図書館協議会表彰規程第2条〇号に基づく表彰者として推薦しますのでよろしくお取り計らい願います。

なお、別紙のとおり推薦調書を提出します。

記

○ ○ ○ ○

別紙(第2条第1号該当者)

表彰者推薦調書

○ ○ 大学(附属)図書館

職名	氏名	生年月日	昭和 平成	年 月 日
推薦理由				
業績等	研究のテーマ 又は調査事項			
	発表集会等名			
	発表年月日			
	掲載誌名及び巻号			
	発行年月日			
	発行機関			
	発表者又は著者名			
当該業績等に係る他組織等からの表彰の有無 (有の場合当該組織名)				
図書館業務歴				

備考

- 1) グループの業績等で推薦する場合は、氏名の欄は代表者名を記入し、推薦理由に当該グループ名を記載すること。
- 2) 業績等の記入欄については、該当する個所について記載すること。
- 3) その他参考となる資料を添付すること。

別紙（第2条第2号該当者）

表彰者推薦調書

○○大学（附属）図書館

職名		氏名		生年月日	昭和 平成	年月日
推薦理由						
履歴事項						
年月日	勤務内容等（大学等名及び業務）					
～						
～						
～						
～						
～						
～						
～						
～						
加盟館勤務年数計○○年						

備考

- 1) 勤務期間の計算は、暦日数によるものとし、日を月に換算する時は30日をもって1月とする。
- 2) 休職の期間（業務上の傷病の期間は除く）及び懲戒処分により停職された期間は、勤務期間から除算する。
- 3) その他参考となる資料があれば、添付すること。

東北地区大学図書館協議会研修部会設置要項

制定 平成 20 年 9 月 18 日

改正 平成 30 年 2 月 1 日

(目的)

第1条 東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に研修部会（以下「部会」という。）を設置し、具体的な研修実施のための企画立案を行い、協議会加盟館員の人材育成と交流の機会を図る。

(活動内容)

第2条 部会は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 部会が主体となって実施する研修の企画
- (2) 研修会会場館（地区）との協力による集合型研修への協力
- (3) 研修結果・成果の協議会ウェブサイト等を利用した公開

(組織)

第3条 部会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 国立大学部会から推薦された者 2名
- (2) 公立大学部会から推薦された者 1名
- (3) 私立大学部会から推薦された者 2名

2. 部会に主査を置く。主査は、委員の互選によるものとする。

(委嘱)

第4条 前条第1項に掲げる委員は、常任幹事館の館長が委嘱する。

(任期)

第5条 第3条第1項に掲げる委員の任期は2年とする。ただし、再任をさまたげない。

(協議会からの援助)

第6条 部会の活動に対して、協議会は必要に応じて援助することができるものとする。

(庶務)

第7条 部会の庶務は常任幹事館において処理する。

(その他)

第8条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は部会が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成 20 年 9 月 18 日から施行する。
- 2 東北地区大学図書館協議会研修検討 WG は、廃止する。

附 則

この要項は、平成 30 年 2 月 1 日から施行する。

東北地区大学図書館協議会ウェブサイト運用部会設置要項

平成20年9月18日制定

(目的)

第1条 東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）にウェブサイト運用部会（以下「部会」という。）を設置し、協議会の活動を広く公開するとともに加盟館及び図書館関連機関に有用な情報を提供する。

(活動内容)

第2条 部会は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 協議会ウェブサイトの運用、管理、更新
- (2) 新規掲載コンテンツの企画

(組織)

第3条 部会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 国立大学部会から推薦された者 2名
- (2) 公立大学部会から推薦された者 1名
- (3) 私立大学部会から推薦された者 2名

2. 部会に主査を置く。主査は、委員の互選によるものとする。

(委嘱)

第4条 前条第1項に掲げる委員は、常任幹事館の館長が委嘱する。

(任期)

第5条 第3条第1項に掲げる委員の任期は2年とする。ただし再任をさまたげない。

(協議会からの援助)

第6条 部会の活動に対して、協議会は必要に応じて援助することができるものとする。

(庶務)

第7条 部会の庶務は、常任幹事館において処理する。

(その他)

第8条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は部会が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成20年9月18日から施行する。
- 2 東北地区大学図書館協議会ウェブサイト開設WGは、廃止する。

記念事業基金積立要綱

昭和57年10月14日制定

当協議会が記念事業を将来行うに必要な基金のために、年度予算に一定積立として計上し、積立てる。

1. 年度の積立金額は、その年度会費総額の10%を限度とする。
2. 期間は昭和57年度からとし、総会の議決により記念事業を行う予定の年度までとする。
3. 積立方法は、金融機関に口座を設け積立てる。
4. その支出については、総会の議決を経なければならない。
5. その会計事務は監査をうけ、総会に報告する。

東北地区大学図書館間相互利用手続き申し合わせ

平成14年9月20日 第57回東北
地区大学図書館協議会総会決定

第56回総会の協議結果を尊重し、東北地区大学図書館協議会に加盟する各大学図書館は、「国公私立大学図書館間相互貸借に関する協定」の目的にある「図書館間の相互貸借の円滑化を図り、もってわが国の学術研究・教育の進展に寄与すること。」の精神を生かし、以下を目標として努力する。

記

1. 来館利用の際の持参書類については、従来必要とした、「利用依頼書・閲覧許可願」等に代り、所属大学発行の「身分証明書」、「学生証」等の本人確認が可能なものの提示により利用を可能とすること。
2. 各大学それぞれの事情があり（例：女子大学の場合における男子学生の入構等）、また、確実に資料を入手するためにも事前連絡は必要と思われるが、急な来館についても、受入館はできるだけのサービスを行うこと。
3. 相互利用を円滑に行うため、各館は所属する研究者、学生に対して相互利用手続きに関する十分な利用者教育を行うこと。
4. 相互利用を円滑に行うため、各館は「図書館間相互協力便覧」に利用上の留意事項を明記するとともに、各館のホームページ上の利用案内においても明記すること。

東北地区国立大学図書館防災連絡網設置要項

平成12年4月20日 第31回国立
大学図書館東北地区協議会決定
平成16年4月22日 第35回東北
地区国立大学図書館協会改正

(目的)

第1条 国立大学図書館協会東北地区協会会則（以下「会則」という。）第2条に定める会員（以下「会員」という。）において地震等による激甚な災害が発生した際、会員における図書館業務の維持に関し、会員間の連絡調整を行うため東北地区防災連絡網（以下「地区防災連絡網」という。）を設置する。

(地区防災連絡網)

第2条 地区防災連絡網は会員により構成し、会員間の連絡調整を行うため地区防災連絡館を置く。

2 地区防災連絡館は、国立大学図書館協会の東北地区理事館を充て、地区連絡館が被災した場合は、東北地区国立大学図書館協会総会の当番館がこれに代わるものとする。

(地区防災連絡館)

第3条 災害発生時における被災館との連絡は、情報の混乱等をさけるため地区防災連絡館が必要な間、集約的に行う。但し、会員における固有の連絡は、この限りとしない。

2 災害発生から被災館が復旧するまでの間、相互利用等会員間に共通する日常業務の維持に関して協議の必要が生じた場合は、地区防災連絡館が調整を行う。

3 地区防災連絡館は、地区防災連絡網の確認及び会員の防災意識を高めるため、原則として年1回以上の連絡訓練を行うものとする。

4 地区防災連絡館は、必要がある場合は、国立大学図書館協会の他地区防災連絡館等との連絡にあたるものとする。

5 地区防災連絡館は、東北地区大学図書館協議会の公立大学及び私立大学の代表との連絡窓口になるものとする。

(会員の連絡窓口の設置)

第4条 会員に連絡窓口を置く。

2 連絡窓口に変更があった場合は、地区防災連絡館に連絡するものとする。

(雑則)

第5条 この要項に定めるもののほか、地区防災連絡網に関する必要な事項は、会則第5条に定める会議において定める。

附 則

この要項は、平成12年4月20日から施行する。

附 則

- 1 この要項は、平成16年4月22日から施行する。
- 2 第2条2項の規定において、東北地区理事館と東北地区国立大学図書館協会総会の当番館が重複した場合、地区防災連絡館は会則第5条に定める総会において決定する。

東北地区大学図書館協議会公立部会防災連絡網設置要項

平成 12 年 9 月 20 日

東北地区大学図書館協議会（公立部会）

（目的）

第1条 東北地区大学図書館協議会公立部会加盟館（以下「公立部会加盟館」という。）において地震等による激甚な災害により被災した際、公立部会加盟館における図書館業務の維持に関し、公立部会加盟館間の連絡調整を行うため東北地区防災連絡網（以下「地区防災連絡網」という。）を設置する。

（地区防災連絡網）

第2条 地区防災連絡網は、公立部会加盟館により構成し、公立部会加盟館間の連絡調整を行うため地区防災連絡館を置く。

2 地区防災連絡館は、東北地区大学図書館協議会公立部会幹事館（以下「公立部会幹事館」という。）を充て、公立部会幹事館が被災した場合は、公立部会会計監査館がこれに代わるものとする。

（被災館）

第3条 地震等による激甚な災害に被災した公立部会加盟館（以下「被災館」という。）は、被災状況を地区防災連絡館へ連絡するものとする。

（地区防災連絡館）

第4条 災害発生時における被災館との連絡は、情報の混乱を避けるため地区防災連絡館が必要な間、集約的に行う。ただし、個々の公立部会加盟館における固有の連絡は、この限りとしない。

2 災害発生から被災館が復旧するまでの間、相互利用等公立部会加盟館に共通する日常業務の維持に関して協議の必要が生じた場合は、地区防災連絡館が調整を行う。

3 地区防災連絡館は、地区防災連絡網の確認及び公立部会加盟館の防災意識を高めるため、原則として年1回以上の連絡訓練を行うものとする。

4 地区防災連絡館は、東北地区大学図書館協議会加盟の国立部会及び私立部会の代表との連絡窓口になるものとする。

（会員の連絡窓口の設置）

第5条 公立部会加盟館に連絡窓口を置く。

2 連絡窓口に変更があった場合は、地区防災連絡館に連絡するものとする。

（雑則）

第6条 この要項に定めるもののほか、地区防災連絡網に関する必要な事項は、東北地区大学図書館協議会公立部会総会において定めるものとする。

附 則

この要項は、平成 12 年 9 月 20 日から施行する。

東北地区大学図書館協議会大学教育部会設置要項

平成 24 年 10 月 19 日制定

(目的)

第1条 東北地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に大学教育部会（以下「部会」という。）を設置し、大学図書館に関わる教職員協働型の大学教育のあり方について検討するとともに、協議会としての事業化の企画立案を行い、加盟大学における「学生の主体的学び」を育成するための取り組みを強化する。

(活動内容)

第2条 部会は、次に掲げる事項について活動する。

- 一 教育支援、大学生の学習支援を効果的に実施するために、加盟大学における知見を集約化し、共有する。
- 二 大学教育そのものに関する図書館員の知見を深めるための方策を検討し、協議会としての事業化の提案を行う。
- 三 教育支援、大学生の学習支援を効果的に実施するための方策を検討し、協議会としての事業化の提案を行う。

(組織)

第3条 部会は、原則として次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 国立大学部会の委員 2人
- 二 公立大学部会の委員 1人
- 三 私立大学部会の委員 3人

2 部会に主査を置き、前項に掲げる委員の互選によって定める。

(委嘱)

第4条 前条第1項に掲げる委員は、常任幹事館の館長が委嘱する。

(任期)

第5条 第3条第1項に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(協議会からの援助)

第6条 部会の活動に対して、協議会は必要に応じて援助することができるものとする。

(庶務)

第7条 部会の庶務は、常任幹事館において処理する。

(その他)

第8条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は部会が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成24年10月19日から施行する。
- 2 この要項の施行後最初に委嘱される委員の任期は、第5条本文の規定にかかわらず、平成25年8月31日までとする。

東北地区大学図書館協議会加盟館及び職員名簿一覧

平成 31 年 4 月 1 日現在

図書館名 (国立 15館)	電話番号	住所、E-mail	図書館長・センター長等	事務責任者等
			氏名	氏名
1 弘前大学附属図書館	(0172)39-3155	036-8560 青森県弘前市文京町1 jm3155@hirosaki-u.ac.jp	図書館長（併：理事 研究担当）・副学長・教授）	事務長
			郡 千寿子	松 岡 昌 江
2 岩手大学図書館	(019)621-6082	020-8550 盛岡市上田三丁目 18-8 lsomu@iwate-u.ac.jp	図書館長 (併副学長：情報統括担当)	学術情報課長
			西 崎 滋	
			副館長（併：教授）	切 金 敦
			木 村 直 弘	
3 東北大学附属図書館	(022)795-5911	980-8576 仙台市青葉区川内 27-1 lib-som@grp.tohoku.ac.jp	図書館長（併：副学長）	事務部長
			大 隅 典 子	
			副館長（併：教授）	加 藤 晃 一
			柳 原 敏 昭	
4 同医学分館	(022)717-7973	980-8575 仙台市青葉区星陵町 1-1 lib-med@grp.tohoku.ac.jp	医学分館長（併：教授）	専門員
			北 本 哲 之	照 内 弘 通
5 同北青葉山分館	(022)795-6368	980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3 klib-k@grp.tohoku.ac.jp	北青葉山分館長（併：教授）	管理係長
			小 原 隆 博	福 井 ひとみ
6 同工学分館	(022)795-5892	980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-03 elib-k@grp.tohoku.ac.jp	工学分館長（併：教授）	専門員
			羽 根 一 博	横 山 美 佳
7 同農学分館	(022)757-4022	980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1 alib@grp.tohoku.ac.jp	農学分館長（併：教授）	図書係長
			金 山 喜 則	田 中 朱 美
8 宮城教育大学 附属図書館	(022)214-3348	980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 149 toshokan@staff.miakyo-u.ac.jp	図書館長（併：教授）	学術情報課長
			中 地 文	大 沼 忠 弘
9 秋田大学附属図書館	(018)889-2273	010-8502 秋田市手形学園町 1-1 libsomu@jimu.akita-u.ac.jp	図書館長（併：教授）	図書館・情報推進課長
			今 野 和 彦	高 橋 寛
10 同医学図書館	(018)884-6052	010-8543 秋田市本道 1 丁目 1-1 ibun@jimu.akita-u.ac.jp	分館長（併：教授）	総括主査
			河 谷 正 仁	菅 野 久美子
山形大学附属図書館	(023)628-4840	990-8560 山形市小白川町 1-4-12 k-tojoyoki@jm.kj.yamagata-u.ac.jp	図書館担当理事	教育・学生支援部 学務課長
			安 田 弘 法	松 田 敦 子
11 山形大学 小白川図書館	(023)628-4904	990-8560 山形市小白川町 1-4-12 jkasomu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp	図書館長（併：教授）	教務課長
			長 山 俊 樹	小 山 和 佳
12 同医学部図書館	(023)628-5054	990-9585 山形市飯田西 2 丁目 2-2 itosyo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp	医学部図書館長（併：教授）	係 長
			山 川 光 徳	大 嶋 聰 子
13 同工学部図書館	(0238)26-3019	992-8510 山形県米沢市城南 4 丁目 3-16 koutosyo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp	工学部図書館長（併：教授）	主 任
			森 秀 晴	寒 河 江 正 陽
14 同農学部図書館	(0235)28-2810	997-8555 鶴岡市若葉町 1-23 notosyo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp	農学部図書館長（併：教授）	係 長
			平 智	齋 藤 順 一
15 福島大学附属図書館	(024)548-8083	960-1293 福島市金谷川 1 番地 k-soumu@lib.fukushima-u.ac.jp	図書館長（副学長）	学術情報課長
			塘 忠 豊	佐 藤 和 弘

図書館名 (公立 12館)	電話番号	住所、E-mail	図書館長・センター長等	事務責任者等
			氏名	氏名
16 青森公立大学図書館	(017)764-1551	030-0196 青森市合子沢山崎 153-4 lib@b.nebuta.ac.jp	図書館長（併：教授）	教務・学生TL 赤平伸一
			香取真理	図書館専門員 小田真邦子
17 青森県立保健大学附属図書館	(017)765-2011	030-8505 青森市大字浜館字間瀬 58-1 library@auhw.ac.jp	図書館長（併：教授）	経営企画室副参事 (図書課長兼務)
			鈴木孝夫	玉川孝一
18 岩手県立大学 メディアセンター	(019)694-2070	020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52 library@ml.iwate-pu.ac.jp	メディアセンター長 (併：教授)	教育支援室長
			高橋聰	
			宮古短期大学部図書館長 (併：准教授)	岡部春美
			三村敬之	
19 宮城大学学術情報 センター (大和キャンパス図書館)	(022)377-8313	981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑 1-1 tosh@myu.ac.jp	学術情報センター長 (併：教授)	事務局学務課学術 情報室長
			茅原拓朗	阿部成雄
19 宮城大学学術情報 センター (太白キャンパス図書館)	(022)245-1046	982-0215 仙台市太白区旗立 2-2-1 f-tosh@myu.ac.jp	学術情報センター長 (併：教授)	事務局太白事務室教務・ 学生支援グループリーダー
			茅原拓朗	藤本聰子
20 秋田県立大学図書 ・情報センター	(018)872-1561	010-0195 秋田市下新城中野字街道 端西 241-438 a_library@akita-pu.ac.jp	図書・情報センター長 (副学長)	事務局次長
			吉澤結子	小沢隆之
21 秋田公立美術大学 附属図書館	(018)888-8106	010-1632 秋田市新屋大川町 12-3 library01@akibi.ac.jp	図書館長（併：教授）	総務課長補佐兼 附属図書館事務長
			天貝義教	大渕政秋
22 国際教養大学 中嶋記念図書館	(018)886-5907	010-1292 秋田市雄和字奥椿岱 193-2 lib1@aiu.ac.jp	図書館長（併：特任教授）	参事兼学修支援室長 兼監査室長
			加藤信哉	須田幸子
23 山形県立保健医療 大学附属図書館	(023)686-6671	990-2212 山形市上柳 260 番地 kanri@yachts.ac.jp	図書館長（併：教授）	図書・調整主査
			菅原京子	鈴木洋子
24 山形県公立大学法人 附属図書館	(0238)22-7334	992-0025 米沢市通町 6-15-1 tosh@yone.ac.jp	図書館長（併：教授）	図書館管理主査
			高橋永行	境幸子
25 会津大学情報センター 附属図書館	(0242)37-2544	965-8580 会津若松市一箕町鶴賀 library@u-aizu.ac.jp	情報センター長(併：教授)	事務長
			北道淳司	平野早苗
26 会津大学短期大学部 附属図書館	(0242)37-2458	965-8570 会津若松市一箕町 大字八幡字門田 1-1 tosh@jc.u-aizu.ac.jp	図書館長（併：教授）	
			鈴木秀子	
27 福島県立医科大学 附属学術情報センター	(024)547-1687	960-1297 福島市光が丘1 lib@fmu.ac.jp	附属学術情報センター長 (併：教授)	総務課長兼 学術情報室長
			黒田直人	菅野敏

図書館名 (私立 36館)	電話番号	住所、E-mail	図書館長・センター長等	事務責任者等
			氏名	氏名
28 東北女子大学附属図書館	(0172)33-2289	036-8530 弘前市大字清原1丁目1-16 tosyo@tojo.ac.jp	図書館長（併：教授）	
			佐々木 隆	
29 八戸学院図書館	(0178)30-1695	031-8588 八戸市美保野13-98 tosyokan@hachinohe-u.ac.jp	図書館長（併：教授）	図書館事務室長
			奈良 卓	織戸 浩
30 八戸工業大学図書館	(0178)25-8032	031-8501 八戸市大字妙字大開88-1 tosyo@hi-tech.ac.jp	図書館長（教授）	事務長
			川本 清	奥 正克
31 弘前学院大学附属図書館	(0172)34-5211	036-8577 弘前市稔町13-1 sisyo2@hirogaku-u.ac.jp	図書館長（併：教授）	
			佐藤 和博	
32 青森中央学院大学・青森中央短期大学図書館情報センター	(017)728-0131	030-0132 青森市横内字神田12番地 lib@aomoricgu.ac.jp	図書館情報センター長（併：教授）	(併)総務担当次長
			北原 かな子	青島 満幸
33 岩手医科大学附属図書館	(019)651-5111	020-8505 盛岡市内丸19番1号 toshio@j.iwate-med.ac.jp	図書館長（併：教授）	事務室長
			石崎 明	
			副館長（併：教授）	
			古山 和道	
			岩手看護短期大学図書館長（併：副学長）	川崎 かおる
			酒井 明夫	
34 富士大学図書館	(0198)22-4986	025-8501 岩手県花巻市下根子450番地3 tosyokan@fuji-u.ac.jp	図書館長（併：教授）	上席調査役(図書課長心得)
			早川 光彦	吉田 葉子
35 盛岡大学図書館	(019)688-5561	020-0694 岩手県滝沢市砂込808 library@morioka-u.ac.jp	図書館長（併：教授）	事務室長
			高橋 幸雄	藤澤 弘樹
36 修紅短期大学図書館	(0191)24-2211	021-0902 岩手県一関市萩生字竹際49-1 library@shuko.ac.jp	図書館長（教授）	職員(司書補)
			千葉 正	齋藤 美紀子
37 仙台大学附属図書館	(0224)55-1399	989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南2-2-18 library@sendai-u.ac.jp	図書館長（併：教授）	事務室長
			斎藤 浩二	今村 絵里香
38 仙台白百合女子大学図書館	(022)374-5090	981-3107 仙台市泉区本田町6-1 library@sendai-shirayuri.ac.jp	図書館長（併：教授）	図書館事務長
			大本 泉	高橋 豊
39 石巻専修大学図書館	(0225)22-7718	986-8580 石巻市南境新水戸1 lib@isenshu-u.ac.jp	図書館長（教授）	事務課掛長
			西方 守	斎藤 元樹
40 東北学院大学図書館(中央図書館)	(022)264-6493	980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 lib-office@mail.tohoku-gakuin.ac.jp	図書館長（併：教授）	図書情報課長
			佐藤 義則	千葉 裕
41 同工学部分館(多賀城キャンパス図書館)	(022)368-1206	985-8537 多賀城市中央1-13-1 lib-office@mail.tohoku-gakuin.ac.jp	分館長（教授）	図書情報課課長補佐
			井川 望	嶋容三
42 同泉分館(泉キャンパス図書館)	(022)375-1174	981-3193 仙台市泉区天神沢2-1-1 lib-office@mail.tohoku-gakuin.ac.jp	分館長（教授）	図書情報課課長補佐
			津上 誠	斎藤 由紀子
43 東北工業大学附属図書館	(022)305-3178	982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1 library-yagiyama@tohtech.ac.jp	図書館長（教授）	図書館事務長(兼務)
			丸尾 容子	目黒 裕二
44 東北福祉大学図書館	(022)717-3319	981-8522 仙台市青葉区国見1丁目8-1 lib@tfu-mail.tfu.ac.jp	図書館長（教授）	課長
			星山 幸男	中塙 晶

45	東北文化学園大学 総合情報センター 図書館	(022)233-3878	981-8551 仙台市青葉区国見 6 丁目 45-1 lib@office.tbgu.ac.jp	総合情報センター長 (併：教授)	事務室課長代理
				藤木 澄 義	森 田 好 彦
46	東北医科薬科大学 附属図書館	(022)727-0061	981-8558 仙台市青葉区小松島 4-4-1 library@tohoku-mpu.ac.jp	図書館長 (併：教授)	学務部図書事務課 課 長
				永 田 清	
				医学分館長 (併：教授)	高 橋 正 吉
				鈴 木 映 二	
47	宮城学院女子大学 図書館	(022)279-5658	981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘 9-1-1 library@mgu.ac.jp	図書館長 (併：教授)	庶務課長
				今 林 直 樹	桜 井 由 美
48	尚絅学院大学図書館	(022)381-3440	981-1295 名取市ゆりが丘 4-10-1 library@shokei.ac.jp	図書館長 (併：教授)	教育研究支援課長
				小 原 俊 文	小 島 広 二
49	聖和学園短期大学 図書館	(022)376-8257	981-3213 仙台市泉区南中山 5-5-2 seiwatandai.toshokan@seiwa.ac.jp	図書館長 (併：教授)	
				川 辺 博	
50	仙台青葉学院短期大学 図書館	(022)369-8003	984-0022 仙台市若林区五橋 3-5-75 lib@seiyogakuin.ac.jp	図書館長 (併：教授)	
				鈴 木 純 子	
51	東北生活文化大学・ 東北生活文化大学短期 大学部附属図書館	(022)272-7518	981-8585 仙台市泉区虹の丘 1 丁目 18-2 library@mishima.ac.jp	図書館長 (併：教授)	
				三 上 秀 夫	
52	ノースアジア大学 附属図書館	(018)836-2406	010-8515 秋田市下北手桜守沢 46-1 nauilib@nau.ac.jp	図書館長 (併：理事長総室長)	教務学生課長
				佐々木 香	山 田 浩 之
53	東北芸術工科大学 図書館	(023)627-2044	990-9530 山形市上桜田 3-4-5 library@aga.tuad.ac.jp	教学 1 課長	教学 1 課リーダー
				須 藤 知 美	小 野 瑠 美
54	羽陽学園短期大学 附属図書館	(023)655-2385	994-0065 山形県天童市大字清池 1559 tosh@uyo.ac.jp	図書館長 (併：教授)	係 長
				柏 倉 弘 和	高 橋 明 子
55	東北文教大学・東北 文教大学短期大学部 附属図書館	(023)688-7544	990-2316 山形市片谷地 515 library@t-bunkyo.ac.jp	図書館長 (併：教授)	課 長
				熊 谷 義 隆	和 田 美 幸
56	東北公益文科大学 図書館	(0234)41-1177	998-8580 酒田市飯森山 3-5-1 media@koeki-u.ac.jp	図書館長 (併：教授)	図書館・IMC 事務室事務長
				遠 山 茂 樹	小 松 奈保美
57	医療創生大学図書館	(0246)29-7121	970-8551 福島県いわき市中央台 飯野 5-5-1 library@iwakiisu.ac.jp	図書館長 (併：教授)	図書館事務室課長
				菊 池 雄 士	鈴 木 久仁恵
58	奥羽大学図書館	(024)932-9061	963-8611 福島県郡山市富田町 字三角堂 31-1 ohu-lib@jim.ohu-u.ac.jp	図書館長	係 長
				安 藤 勝	佐 藤 夏 美
59	郡山女子大学図書館	(024)932-4848	963-8503 福島県郡山市開成 3-25-2 library@koriyama-kgc.ac.jp	図書館長 (併：教授)	司書係長 (併) 講 師
				武 井 玲 子	
				副館長 (併：教授)	和 知 剛
				桑 野 聰	
60	東日本国際大学 ・いわき短期大学 昌平図書館	(0246)35-0416	970-8567 福島県いわき市平鎌田字 寿金沢 37 番地 lib@tonichi-kokusai-u.ac.jp	図書館長 (併：教授)	課長補佐
				倉 田 貢	織 内 春 江
61	日本大学図書館 工学部分館	(024)956-8642	963-8642 福島県郡山市田村町徳定 字中河原 1 tosyokan@ao.ce.nihon-u.ac.jp	工学部分館長 (併：教授)	図書館事務課長
				植 竹 大 輔	小 野 信太郎

62	桜の聖母短期大学 図書館情報センター	(024)534-7137	960-8585 福島県福島市花園町 3-6 lib-c@ssjc.ac.jp	図書館情報センター長 (併：企画室長)	司 書
				遠 藤 修 司	
				センター委員（併：講師）	
				岩 井 千 華	
63	福島学院大学 図書館情報センター	(024)553-2087	960-0181 福島市宮代乳児池 1-1 toshо@fukushima-college.ac.jp	図書館長（併：教授）	業務課長
				梅 宮 れいか	
				佐 藤 幸	



ともに奏で、ともに創る。
私たちの未来。

私たちは世界中の人びとと協奏しながら、
先進のICTで、明るく希望に満ちた社会を実現していきます。

\Orchestrating a brighter world



SFP

システムファインドピッカー®

**図書館のサービス向上に!
書籍貸出管理の無人化対応を実現します。**

株式会社図書館総合研究所監修

Point 1

省スペース	高い位置にまで排架でき、建屋にあわせて空間を有効に使えます。自動貸出端末機能も集約。
-------	--

Point 2

セルフ機能	タッチパネル操作で誰にでも簡単に操作できます。図書館員と対面なく貸出・返却が可能です。
-------	---

Point 3

自動受取・排架	利用者の操作で書籍が自動で取出口へ搬送されます。排架も自動です。
---------	----------------------------------

Point 4

安全配慮	フラットな外観で、取出口には手を挟まないための安全装置付。耐震性も十分考慮した安心・安全設計。
------	---

Case Study

活用例1／予約本の貸出に	活用例2／公共空間や駅前でのサービス向上に
<p>現在、公共図書館での時間外対応は返却のみが一般的ですが、システムファインドピッカーは予約本貸出の対応を可能にします。</p> 	<p>システムファインドピッカーをミニ図書館として公共空間や駅前などに設置することで、市民サービスの向上につながります。</p> 

快適な空間を創造・ご提案

※トータルプランニングから設計・施工迄

- ・経験豊富なスタッフが対応します。
- ・安心・安全・エコな商品を提供します。
- ・スピーディーな対応をいたします。



営業品目

木製家具・事務用家具・間仕切家具
内装工事(壁・床)・カーテン・ブラインド工事
看板サイン工事・アクリル・ステンレス加工
図書用品・家具リニューアル
建築工事一式・リフォーム工事(レイアウト変更)

取引メーカー

- ・(株)天童木工・カリモク家具(株)・ナゼロ(株)・(株)アダル
- ・(株)イトーキ・愛知(株)・コクヨ東北販売(株)・アイリストセ(株)
- ・(株)スミノエ・(株)川島織物セルコン・立川ブラインド工業(株)
- ・トーソー(株)・(株)品川アート・プロ



建設業 国土交通大臣許可 (般 30・第 25354 号)



大沼クリエーションサービス株式会社

<http://www.onuma-cs.co.jp/>

本 社 〒990-8571 山形県山形市七日町一丁目2番30号

仙台営業所 〒983-0034 宮城県仙台市宮城野区扇町七丁目5番20号
TEL 022(290)5461 FAX 022(290)5462

山形営業所 〒990-0043 山形県山形市本町一丁目9番6号 2F
TEL 023(642)1390 FAX 023(642)1392

時代の半歩先を提案する OCS

大沼企業グループ／大沼百貨店・山形本店・米沢店・オーヌマギフトショップ新庄店

レポート、論文の資料として レファレンスとして
明治から昭和 47 年まで 東北の 100 年を知る長期統計

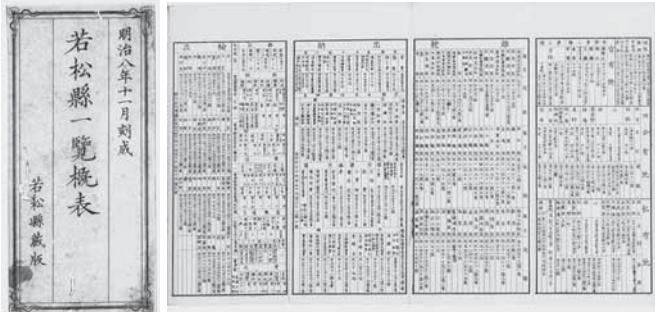
J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズセンター
Japan Digital Archives Center

Prefectural Statistics Online(PSO) 都道府県統計書データベース



オンライン

各都道府県が明治以降毎年刊行してきた各管轄区域の人口、農業、工業など様々な項目についての統計書。明治 6 ~ 7 年頃の「一覧表」に始まり、昭和 16 ~ 17 年頃まで刊行、戦後は昭和 22 ~ 23 年頃から復刊されました。「統計年鑑」等に比べ項目が細分化しており、また県の統計書だけに記載されたデータもあるなど、当時の社会・経済・財政・教育などの事情を知る上で見逃せない基本資料です。



若松県（福島県）一覧概表（明治 8 年）



使いやすい検索画面

- ◆ 表単位でメタデータを採録しているので、詳細な検索が可能
- ◆ 独自に付与した 24 分類により古い表が探しやすい

分類 土地・気象／人口／労働・賃金／事業所／農業／林業／水産業／鉱工業／
土木・建設・住宅／電気・ガス・水道／運輸・通信／商業・貿易／金融／
物価・家計／財政／経済／社会保障／保健衛生／教育／文化・観光／
公務員・選挙／司法・警察／災害・事故・消防／軍事・防衛

北海道／東北地方セット

明治年間 (モジュール 19)
大正年間 (モジュール 13)
昭和戦前 (モジュール 7)
昭和戦後 (モジュール 1)
各 1 モジュール 300,000 円 + 税
合計 1,200,000 円 + 税

地域経済の中心 商工会議所の資料 統計にも注目



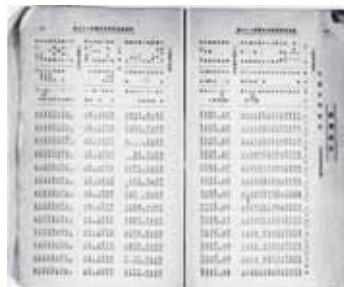
オンライン

全国商工会議所関係資料 第 III 期 国内各地商工会議所および日本商工会議所関係資料 (明治 20 年～昭和 20 年)

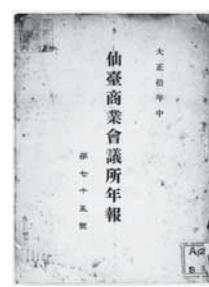
明治中期から戦時末期に至るまで、地域経済の実態を知ることのできる第一級の資料群です。東京商工会議所所蔵資料に加え、全国 30 におよぶ図書館・研究所の協力のもと、国内各地に散在する資料も可能な限り収録しました。明治以来の代表的な地域統計「府県統計書」を補完する、長期の統計資料としても有用な資料です。

北海道／東北地方セット

商業会議所時代 (明治～昭和 3 年頃まで)
モジュール 2 400,000 円 + 税
商工会議所時代 (昭和 3 年頃～昭和 20 年まで)
モジュール 3 500,000 円 + 税



仙台市物価表



仙台商業会議所年報 第 75 号
大正 10 年中

1 ヶ月間無料トライアル受付中！

お問い合わせは
こちらのメールアドレスまで ▶▶ kenkyushien@maruzen.co.jp

MARUZEN-YUSHODO 丸善雄松堂株式会社 <http://yushodo.maruzen.co.jp/>

学術情報ソリューション事業部 研究支援統括部業務支援部 販促グループ E-mail : kenkyushien@maruzen.co.jp

〒105-0022 東京都港区海岸1-9-18 国際浜松町ビル TEL : 03-6367-6025 FAX : 03-6367-6188

制震 ハンドル式スタックリンナー

ラック仕様や強度、操作性はそのままに、人に対する安全性をワンランクアップしました。

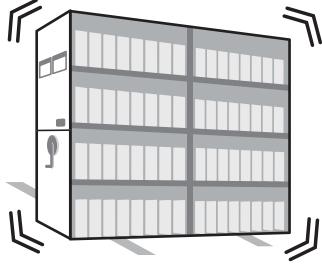
「耐震」+「免震」に加えて「制震機能」を備えたハンドル式移動棚

新製品

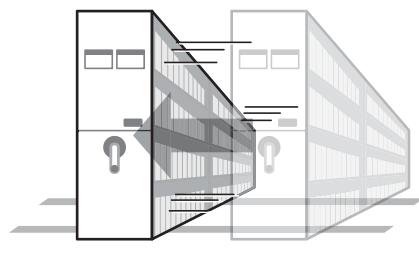


耐震構造 + 免震機能 + 制震機能

地震力に耐え得るラック構造で、本体の損傷は少ないが、図書が落下する危険性があります。



転倒を避けるため、安全ロックを解除してレール上を移動しますが、通路間に挟まれる危険性があります。



制震ハンドルユニットが作動すると、移動棚に適度なブレーキ力が働き暴走と転倒を抑え、図書の落下も最小限に留めます。



よりよい保管システムを提供する



日本ファイリング

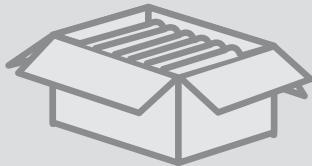
日本ファイリング株式会社

本社／〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2

支店／大阪・名古屋 営業所／札幌・仙台・広島・福岡

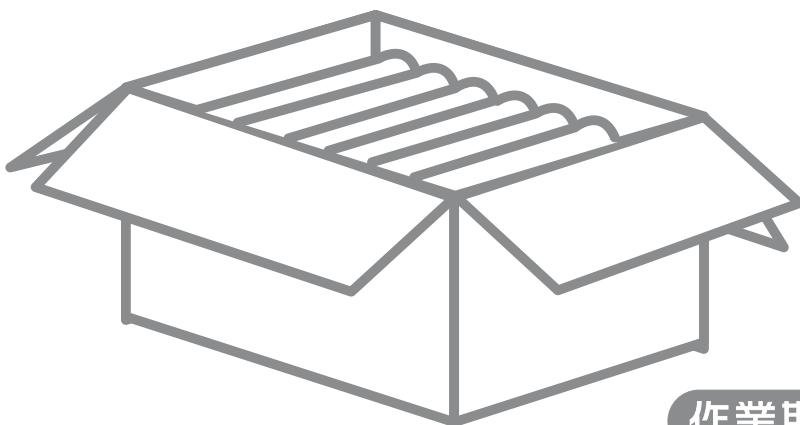
ISO14001
ISO9001
認証取得企業

お手軽に 燻蒸 + クリーニング を実施！



箱ごと カビ処理 サービス

／ケースに入れて渡すだけ！／



作業期間：約 2 か月

図書資料を 1 箱単位でお預かりし、燻蒸処理&クリーニング処理 するサービスです。

燻蒸処理 + クリーニング処理

作業内容



燻蒸

燻蒸とは、専用の薬剤により
殺カビ・殺虫・殺卵をするこ
とです。

使用薬剤：エキヒュームS
(公益財団法人文化財虫菌害研究所 認定薬剤)



図書クリーニング

資料の形態に合わせて、
乾式クリーニングと
湿式クリーニングを行います。
(資料の形態によっては
乾式クリーニングのみ行います。)

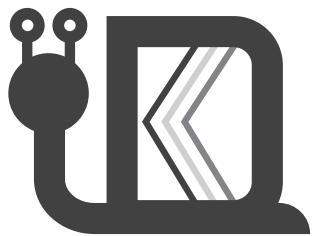


ナカバヤシ株式会社 図書館ソリューション営業部

東京本社 〒174-8602 東京都板橋区東坂下2丁目5-1 TEL:03-3558-1251 FAX:03-3558-1260
大阪支社 堺オフィス 〒599-8116 大阪府堺市東区野尻町221番地3 TEL:072-286-8020 FAX:072-286-8021
名古屋支店 〒456-0053 名古屋市熱田区一番2丁目2-6 TEL:052-661-3771 FAX:052-661-3775
福岡支店 〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭5丁目7-11 TEL:092-641-3661 FAX:092-641-3699

札幌営業所 仙台営業所 横浜営業所 広島営業所 高松出張所

HP : <https://www.nakabayashi.co.jp/> MAIL : toshokan@nakabayashi.co.jp



紀伊國屋書店 学術電子図書館

KinoDen

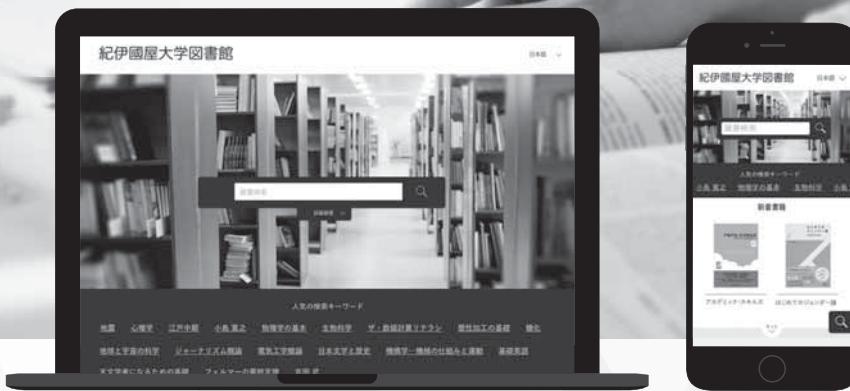
Kinokuniya Digital Library

KinoDenは学術和書の新刊を中心とした
豊富なコンテンツを提供する
図書館向けの電子書籍サービスです。



本当に使われる 学術 電子図書館

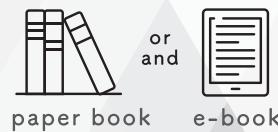
研究・学修・収書の新しいかたち



KinoDenのメリット



未購入タイトルも含めて
全点全文検索&試し読み
機能を標準装備しています。



Web選書支援システム
SmartPLATON(PLATON)
と併せてご提供、紙と電子の選択
収書が実現します。



学生・教員からのリクエスト機能で
“本当に使われる電子図書館”を
実現します。



レスポンシブなサイトデザインで
スマートフォンでも快適に
ご利用いただけます。



無料アプリで本棚、マークや
コメント、通知などさまざまな
機能をご利用いただけます。

東北地区大学図書館協議会誌 第 70 号

平成 31 年 4 月

発 行 仙台市青葉区川内 27-1 東北大学附属図書館内

東北地区大学図書館協議会

☎ (022) 795-5910

編 集 仙台市青葉区川内 27-1 東北大学附属図書館
